社会福祉法人　京都障害者福祉センター
令和4年度 計算書類等

☝ 項目をクリックしてください。ページへ移動します。

1　計算書類

2　事業報告

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和 4年 4月 1日（至）令和 5年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	134,576,000	141,724,715	△7,148,715
		障害福祉サービス等事業収入	1,455,424,000	1,448,132,401	7,291,599
		その他の事業収入	108,942,000	108,215,227	726,773
		その他の収入	1,205,000	1,166,281	38,719
		経常経費寄附金収入	1,390,000	1,390,000	
		受取利息配当金収入	6,309,000	6,878,738	△569,738
		その他の収入	20,169,000	19,294,166	874,834
		流動資産評価益等による資金増加額	6,400,000	6,383,307	16,693
		事業活動収入計(1)	1,734,415,000	1,733,184,835	1,230,165
	支出	人件費支出	1,314,021,000	1,275,204,340	38,816,660
		事業費支出	118,643,000	103,540,300	15,102,700
		事務費支出	150,671,000	131,741,293	18,929,707
		就労支援事業支出	148,987,000	141,123,287	7,863,713
		支払利息支出	2,100,000	2,052,140	47,860
		その他の支出	14,301,000	13,315,491	985,509
		法人税、住民税及び事業税支出	492,000	491,300	700
		事業活動支出計(2)	1,749,215,000	1,667,468,151	81,746,849
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△14,800,000	65,716,684	△80,516,684
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,000,000	3,000,000	
		施設整備等寄附金収入	150,000	150,000	
		固定資産売却収入	20,000	20,000	
		施設整備等収入計(4)	3,170,000	3,170,000	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	36,200,000	36,108,000	92,000
		固定資産取得支出	29,223,000	28,629,734	593,266
		その他の施設整備等による支出	2,330,000	2,328,780	1,220
		施設整備等支出計(5)	67,753,000	67,066,514	686,486
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△64,583,000	△63,896,514	△686,486
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	14,103,000	795,519	13,307,481
		その他の活動収入計(7)	14,103,000	795,519	13,307,481
	支出	積立資産支出	6,169,000	6,169,000	
		その他の活動支出計(8)	6,169,000	6,169,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		7,934,000	△5,373,481	13,307,481
予備費支出(10)				—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△71,449,000	△3,553,311	△67,895,689

前期末支払資金残高(12)	903,833,124	903,833,124	
当期末支払資金残高(11)+(12)	832,384,124	900,279,813	△67,895,689

第一号第二様式（第十七条第四項関係）

資金収支内訳表

（自）令和 4年 4月 1日（至）令和 5年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			社会福祉事業	公益事業	合計
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	146,965,715		146,965,715
		障害福祉サービス等事業収入	1,448,132,401		1,448,132,401
		その他の事業収入	69,068,262	39,146,965	108,215,227
		その他の収入	1,166,281		1,166,281
		経常経費寄附金収入	1,390,000		1,390,000
		受取利息配当金収入	6,878,548	190	6,878,738
		その他の収入	19,294,166		19,294,166
		流動資産評価益等による資金増加額	6,383,307		6,383,307
		事業活動収入計(1)	1,699,278,680	39,147,155	1,738,425,835
	支出	人件費支出	1,269,821,389	5,382,951	1,275,204,340
		事業費支出	103,540,300		103,540,300
		事務費支出	111,762,664	25,219,629	136,982,293
		就労支援事業支出	141,123,287		141,123,287
		支払利息支出	2,052,140		2,052,140
		その他の支出	13,315,491		13,315,491
		法人税、住民税及び事業税支出		491,300	491,300
		事業活動支出計(2)	1,641,615,271	31,093,880	1,672,709,151
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		57,663,409	8,053,275	65,716,684
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,000,000		3,000,000
		施設整備等寄附金収入	150,000		150,000
		固定資産売却収入	20,000		20,000
		施設整備等収入計(4)	3,170,000		3,170,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	36,108,000		36,108,000
		固定資産取得支出	23,593,135	5,036,599	28,629,734
		その他の施設整備等による支出	2,328,780		2,328,780
		施設整備等支出計(5)	62,029,915	5,036,599	67,066,514
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△58,859,915	△5,036,599	△63,896,514
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	795,519		795,519
		事業区分間長期貸付金回収収入	4,000,000		4,000,000
		その他の活動収入計(7)	4,795,519		4,795,519
	支出	積立資産支出	6,169,000		6,169,000
		事業区分間長期借入金返済支出		4,000,000	4,000,000
		その他の活動支出計(8)	6,169,000	4,000,000	10,169,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△1,373,481	△4,000,000	△5,373,481
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)			△2,569,987	△983,324	△3,553,311

前期末支払資金残高(11)	882,123,993	21,709,131	903,833,124
当期末支払資金残高(10)+(11)	879,554,006	20,725,807	900,279,813

第一号第二様式（第十七条第四項関係）

資金収支内訳表

（自）令和 4年 4月 1日（至）令和 5年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			内部取引消去	法人合計
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	△5,241,000	141,724,715
		障害福祉サービス等事業収入		1,448,132,401
		その他の事業収入		108,215,227
		その他の収入		1,166,281
		経常経費寄附金収入		1,390,000
		受取利息配当金収入		6,878,738
		その他の収入		19,294,166
		流動資産評価益等による資金増加額		6,383,307
		事業活動収入計(1)	△5,241,000	1,733,184,835
	支出	人件費支出		1,275,204,340
		事業費支出		103,540,300
		事務費支出	△5,241,000	131,741,293
		就労支援事業支出		141,123,287
		支払利息支出		2,052,140
		その他の支出		13,315,491
		法人税、住民税及び事業税支出		491,300
		事業活動支出計(2)	△5,241,000	1,667,468,151
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			65,716,684
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入		3,000,000
		施設整備等寄附金収入		150,000
		固定資産売却収入		20,000
		施設整備等収入計(4)		3,170,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出		36,108,000
		固定資産取得支出		28,629,734
		その他の施設整備等による支出		2,328,780
		施設整備等支出計(5)		67,066,514
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			△63,896,514
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入		795,519
		事業区分間長期貸付金回収収入	△4,000,000	
		その他の活動収入計(7)	△4,000,000	795,519
	支出	積立資産支出		6,169,000
		事業区分間長期借入金返済支出	△4,000,000	
		その他の活動支出計(8)	△4,000,000	6,169,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			△5,373,481
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)				△3,553,311

前期末支払資金残高(11)		903,833,124
当期末支払資金残高(10)+(11)		900,279,813

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

法人単位事業活動計算書

（自）令和 4年 4月 1日（至）令和 5年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	141,724,715	124,821,161	16,903,554
		障害福祉サービス等事業収益	1,448,132,401	1,433,834,138	14,298,263
		その他の事業収益	108,215,227	108,562,722	△347,495
		その他の収益	1,166,281	1,042,420	123,861
		経常経費寄附金収益	1,390,000	968,560	421,440
		サービス活動収益計(1)	1,700,628,624	1,669,229,001	31,399,623
	費用	人件費	1,271,921,873	1,257,136,714	14,785,159
		事業費	103,540,300	93,367,803	10,172,497
		事務費	132,810,204	126,595,916	6,214,288
		就労支援事業費用	142,451,457	128,551,108	13,900,349
		減価償却費	86,869,411	91,388,327	△4,518,916
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△5,067,601	△5,684,612	617,011
		サービス活動費用計(2)	1,732,525,644	1,691,355,256	41,170,388
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		△31,897,020	△22,126,255	△9,770,765
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	6,878,738	4,501,347	2,377,391
		有価証券評価益	6,383,307	8,307,258	△1,923,951
		その他のサービス活動外収益	19,294,166	19,867,250	△573,084
		サービス活動外収益計(4)	32,556,211	32,675,855	△119,644
	費用	支払利息	2,052,140	2,205,853	△153,713
		その他のサービス活動外費用	13,315,491	12,918,056	397,435
		サービス活動外費用計(5)	15,367,631	15,123,909	243,722
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		17,188,580	17,551,946	△363,366
経常増減差額(7)=(3)+(6)			△14,708,440	△4,574,309	△10,134,131
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,000,000	2,118,000	882,000
		施設整備等寄附金収益	150,000	350,000	△200,000
		固定資産受贈額	1,344,000	102,000	1,242,000
		固定資産売却益	19,999	179,998	△159,999
		特別収益計(8)	4,513,999	2,749,998	1,764,001
	費用	固定資産売却損・処分損	10	42,561	△42,551
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,000,000	2,118,000	882,000
		その他の特別損失		3,981,584	△3,981,584
		特別費用計(9)	3,000,010	6,142,145	△3,142,135
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		1,513,989	△3,392,147	4,906,136
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			△13,194,451	△7,966,456	△5,227,995
法人税、住民税及び事業税(12)			491,300	128,000	363,300
法人税等調整額(13)					
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)			△13,685,751	△8,094,456	△5,591,295
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)		1,789,090,683	1,800,195,949	△11,105,266
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		1,775,404,932	1,792,101,493	△16,696,561
	基本金取崩額(17)				
	その他の積立金取崩額(18)		795,519	3,152,190	△2,356,671
	その他の積立金積立額(19)		6,169,000	6,163,000	6,000
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)		1,770,031,451	1,789,090,683	△19,059,232

第二号第二様式（第二十三条第四項関係）

事業活動内訳表

（自）令和 4年 4月 1日（至）令和 5年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			京都障害者福祉センター		合計	内部取引消去	法人合計
			社会福祉事業	公益事業			
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	146,965,715		146,965,715	△5,241,000	141,724,715
		障害福祉サービス等事業収益	1,448,132,401		1,448,132,401		1,448,132,401
		その他の事業収益	69,068,262	39,146,965	108,215,227		108,215,227
		その他の収益	1,166,281		1,166,281		1,166,281
		経常経費寄附金収益	1,390,000		1,390,000		1,390,000
		サービス活動収益計(1)	1,666,722,659	39,146,965	1,705,869,624	△5,241,000	1,700,628,624
	費用	人件費	1,266,538,922	5,382,951	1,271,921,873		1,271,921,873
		事業費	103,540,300		103,540,300		103,540,300
		事務費	112,831,575	25,219,629	138,051,204	△5,241,000	132,810,204
		就労支援事業費用	142,451,457		142,451,457		142,451,457
		減価償却費	77,469,906	9,399,505	86,869,411		86,869,411
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△5,067,601		△5,067,601		△5,067,601
		サービス活動費用計(2)	1,697,764,559	40,002,085	1,737,766,644	△5,241,000	1,732,525,644
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		△31,041,900	△855,120	△31,897,020		△31,897,020
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	6,878,548	190	6,878,738		6,878,738
		有価証券評価益	6,383,307		6,383,307		6,383,307
		その他のサービス活動外収益	19,294,166		19,294,166		19,294,166
		サービス活動外収益計(4)	32,556,021	190	32,556,211		32,556,211
	費用	支払利息	2,052,140		2,052,140		2,052,140
		その他のサービス活動外費用	13,315,491		13,315,491		13,315,491
		サービス活動外費用計(5)	15,367,631		15,367,631		15,367,631
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		17,188,390	190	17,188,580		17,188,580
経常増減差額(7)=(3)+(6)			△13,853,510	△854,930	△14,708,440		△14,708,440
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,000,000		3,000,000		3,000,000
		施設整備等寄附金収益	150,000		150,000		150,000
		固定資産受贈額	1,344,000		1,344,000		1,344,000
		固定資産売却益	19,999		19,999		19,999
		事業区分間固定資産移管収益	1		1	△1	
		特別収益計(8)	4,514,000		4,514,000	△1	4,513,999
	費用	固定資産売却損・処分損	6	4	10		10
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,000,000		3,000,000		3,000,000
		事業区分間固定資産移管費用		1	1	△1	
		特別費用計(9)	3,000,006	5	3,000,011	△1	3,000,010
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		1,513,994	△5	1,513,989		1,513,989
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			△12,339,516	△854,935	△13,194,451		△13,194,451
法人税、住民税及び事業税(12)				491,300	491,300		491,300
法人税等調整額(13)							
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)			△12,339,516	△1,346,235	△13,685,751		△13,685,751
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)		1,721,553,541	67,537,142	1,789,090,683		1,789,090,683
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		1,709,214,025	66,190,907	1,775,404,932		1,775,404,932
	基本金取崩額(17)						
	その他の積立金取崩額(18)		795,519		795,519		795,519
	その他の積立金積立額(19)		6,169,000		6,169,000		6,169,000
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)		1,703,840,544	66,190,907	1,770,031,451		1,770,031,451

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の部	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,003,244,638	1,000,710,769	2,533,869
現金預金	497,511,497	522,382,447	△24,870,950
有価証券	231,235,049	224,851,742	6,383,307
事業未収金	247,420,991	219,602,483	27,818,508
未収金	2,219,713	2,022,695	197,018
未収補助金	13,300,106	21,112,500	△7,812,394
商品・製品	1,021,161	1,164,277	△143,116
原材料	3,095,269	2,068,730	1,026,539
立替金	292,310	560,033	△267,723
前払金	124,018	361,381	△237,363
前払費用	6,203,288	5,924,012	279,276
仮払金		48,832	△48,832
その他の流動資産	821,236	611,637	209,599
固定資産	1,964,295,507	2,017,152,985	△52,857,478
基本財産	1,292,624,860	1,338,358,669	△45,733,809
土地	526,440,671	526,440,671	
建物	764,884,189	810,617,998	△45,733,809
定期預金	1,300,000	1,300,000	
その他の固定資産	671,670,647	678,794,316	△7,123,669
建物	90,557,176	95,417,430	△4,860,254
構築物	26,861,782	30,030,510	△3,168,728
機械及び装置	7,255,721	9,863,186	△2,607,465
車輌運搬具	17,825,507	17,366,765	458,742
器具及び備品	28,408,240	37,482,599	△9,074,359
建設仮勘定	12,508,000		12,508,000
権利	3,268,089	3,384,982	△116,893
ソフトウェア	1,804,038	8,530,311	△6,726,273
投資有価証券	10,000	10,000	
その他の積立資産	481,141,561	475,768,080	5,373,481
長期前払費用	1,898,193	847,923	1,050,270
その他の固定資産	132,340	92,530	39,810
資産の部合計	2,967,540,145	3,017,863,754	△50,323,609

負債の部	当年度末	前年度末	増減
流動負債	184,335,812	185,633,121	△1,297,309
事業未払金	68,974,778	68,761,865	212,913
その他の未払金	6,690,700	1,020,440	5,670,260
1年以内返済予定設備資金借入金	33,099,000	36,108,000	△3,009,000
未払費用	8,608,110	8,903,641	△295,531
預り金	649,050	571,781	77,269
職員預り金	12,719,521	13,387,674	△668,153
前受金	385,000	387,600	△2,600
賞与引当金	53,209,653	56,492,120	△3,282,467
固定負債	506,990,000	540,089,000	△33,099,000
設備資金借入金	506,990,000	540,089,000	△33,099,000
負債の部合計	691,325,812	725,722,121	△34,396,309
純資産の部			
基本金	1,300,000	1,300,000	
基本金	1,300,000	1,300,000	
国庫補助金等特別積立金	23,741,321	25,982,870	△2,241,549
国庫補助金等特別積立金	23,741,321	25,982,870	△2,241,549
その他の積立金	481,141,561	475,768,080	5,373,481
その他の積立金	481,141,561	475,768,080	5,373,481
次期繰越活動増減差額	1,770,031,451	1,789,090,683	△19,059,232
次期繰越活動増減差額	1,770,031,451	1,789,090,683	△19,059,232
（うち当期活動増減差額）	△13,685,751	△8,094,456	△5,591,295
純資産の部合計	2,276,214,333	2,292,141,633	△15,927,300
負債及び純資産の部合計	2,967,540,145	3,017,863,754	△50,323,609

第三号第二様式（第二十七条第四項関係）

貸借対照表内訳表

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

勘　定　科　目	社会福祉事業	公益事業	合　　計	内部取引消去	法 人 合 計
流動資産	989,543,617	23,948,840	1,013,492,457	△10,247,819	1,003,244,638
現金預金	483,983,264	13,528,233	497,511,497		497,511,497
有価証券	231,235,049		231,235,049		231,235,049
事業未収金	247,420,991	10,247,819	257,668,810	△10,247,819	247,420,991
未収金	2,130,843	88,870	2,219,713		2,219,713
未収補助金	13,300,106		13,300,106		13,300,106
商品・製品	1,021,161		1,021,161		1,021,161
原材料	3,095,269		3,095,269		3,095,269
立替金	290,892	1,418	292,310		292,310
前払金	124,018		124,018		124,018
前払費用	6,120,788	82,500	6,203,288		6,203,288
その他の流動資産	821,236		821,236		821,236
固定資産	1,918,830,407	76,841,172	1,995,671,579	△31,376,072	1,964,295,507
基本財産	1,292,624,860		1,292,624,860		1,292,624,860
土地	526,440,671		526,440,671		526,440,671
建物	764,884,189		764,884,189		764,884,189
定期預金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
その他の固定資産	626,205,547	76,841,172	703,046,719	△31,376,072	671,670,647
建物	25,624,569	64,932,607	90,557,176		90,557,176
構築物	25,089,206	1,772,576	26,861,782		26,861,782
機械及び装置	6,331,941	923,780	7,255,721		7,255,721
車輌運搬具	17,825,507		17,825,507		17,825,507
器具及び備品	19,196,031	9,212,209	28,408,240		28,408,240
建設仮勘定	12,508,000		12,508,000		12,508,000
権利	3,268,089		3,268,089		3,268,089
ソフトウェア	1,804,038		1,804,038		1,804,038
投資有価証券	10,000		10,000		10,000
事業区分間長期貸付金	31,376,072		31,376,072	△31,376,072	
その他の積立資産	481,141,561		481,141,561		481,141,561
長期前払費用	1,898,193		1,898,193		1,898,193
その他の固定資産	132,340		132,340		132,340
資産の部合計	2,908,374,024	100,790,012	3,009,164,036	△41,623,891	2,967,540,145
流動負債	191,360,598	3,223,033	194,583,631	△10,247,819	184,335,812
事業未払金	76,572,101	2,650,496	79,222,597	△10,247,819	68,974,778
その他の未払金	6,690,700		6,690,700		6,690,700
1年以内返済予定設備資金借入金	33,099,000		33,099,000		33,099,000
未払費用	8,608,110		8,608,110		8,608,110
預り金	76,513	572,537	649,050		649,050
職員預り金	12,719,521		12,719,521		12,719,521
前受金	385,000		385,000		385,000
賞与引当金	53,209,653		53,209,653		53,209,653
固定負債	506,990,000	31,376,072	538,366,072	△31,376,072	506,990,000
設備資金借入金	506,990,000		506,990,000		506,990,000
事業区分間長期借入金		31,376,072	31,376,072	△31,376,072	
負債の部合計	698,350,598	34,599,105	732,949,703	△41,623,891	691,325,812
基本金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
基本金	1,300,000		1,300,000		1,300,000
国庫補助金等特別積立金	23,741,321		23,741,321		23,741,321
国庫補助金等特別積立金	23,741,321		23,741,321		23,741,321
その他の積立金	481,141,561		481,141,561		481,141,561
その他の積立金	481,141,561		481,141,561		481,141,561
次期繰越活動増減差額	1,703,840,544	66,190,907	1,770,031,451		1,770,031,451
次期繰越活動増減差額	1,703,840,544	66,190,907	1,770,031,451		1,770,031,451
（うち当期活動増減差額）	△12,339,516	△1,346,235	△13,685,751		△13,685,751
純資産の部合計	2,210,023,426	66,190,907	2,276,214,333		2,276,214,333
負債及び純資産の部合計	2,908,374,024	100,790,012	3,009,164,036	△41,623,891	2,967,540,145

別紙１

計算書類に対する注記

１．継続事業の前提に関する注記

該当なし

２．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）

・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

・建物並びに構築物、機械及び装置、車両運搬具、器具及び備品、権利、ソフトウェア－定額法

・リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

・賞与引当金－職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している

(4) 消費税等の会計処理

・消費税の会計処理は、税込方式によっている。

３．重要な会計方針の変更

該当なし

５．法人が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当法人の作成する計算書類は以下のとおりになっている。

(1) 法人全体の計算書類(会計基準省令第一号第一様式、第二号第一様式、第三号第一様式)

(2) 事業区分別内訳表(会計基準省令第一号第二様式、第二号第二様式、第三号第二様式)

(3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表(会計基準省令第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式)

(4) 収益事業における拠点区分別内訳表(会計基準省令第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式)

当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。

(5) 各拠点区分におけるサービス区分の内容

ア法人本部拠点（社会福祉事業）

「法人本部」

イ京都市洛南身体障害者福祉会館拠点（社会福祉事業）

「身体障害者福祉センター（Ｂ型）」

「生活介護事業」

「就労継続支援Ｂ型事業」

「計画相談支援事業」

「ＩＴ事業」

「京都市重度身体障害者支援事業」

ウ京都市山科身体障害者福祉会館拠点（社会福祉事業）

法人名　　社会福祉法人　京都障害者福祉センター
事業所名
事業・拠点　［京都障害者福祉センター］

財　産　目　録

令和　５年　３ 月３１ 日 現在

別紙４
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
Ⅰ 資産の部						
１ 流動資産						
現金	各拠点区分現金手元有高		運営資金として			448,766
預金	京都中央信用金庫九条支店他		運営資金として			494,778,758
小口現金	各拠点区分現金手元有高		運営資金として			2,283,973
有価証券	大和証券京都支店		資産運用として			231,235,049
事業未収金	京都府国民健康保険連合会		介護給付費等			247,420,991
未収金	職員		給食費等			2,219,713
未収補助金	京都市		補助金			13,300,106
商品・製品	就労施設		棚卸商品・製品			1,021,161
原材料	就労施設		棚卸原材料			3,095,269
立替金	職員		社会保険料			292,310
前払金	利用者		給食用食材仕入			124,018
前払費用	（株）三井田商事		ソフト保守料			6,203,288
１年以内提供予定長期前払費用	東京海上日動火災保険（株）		火災保険料等			821,236
流動資産合計						1,003,244,638
２ 固定資産						
(1) 基本財産						
土地						
	（とらい拠点）伏見区鍛冶屋964番地	平成27年度	第2種社会福祉事業である共同生活援助事業施設等に使用している			42,430,839
	（本部拠点）伏見区桝形町435番地１	平成25年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している			79,602,637
	（本部拠点）伏見区西大黒町1035番14	平成25年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している			16,300,000
	（本部拠点）南区上鳥羽高畠町29番	平成26年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している			113,821,849
	（本部拠点）山科区東野1番地17	平成28年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業・共同生活援助事業施設等に使用している			221,780,510
	（本部拠点）伏見区醍醐辰巳町7番地10	平成28年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している			18,370,266
	（本部拠点）伏見区醍醐辰巳町7番地１、7番地13、39番地１	平成29年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している			33,822,270
	（本部拠点）伏見区醍醐辰巳町56番	平成29年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している			312,300
			小計			526,440,671
建物						
	（洛南障害者デイあすなろ拠点）南区上鳥羽高畠町29番	平成27年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している	183,626,271	66,669,171	116,957,100
	（京都市ふしみ学園拠点）伏見区桝形町435番1	平成26年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している	47,970,500	18,335,747	29,634,753
	（生活サポートセンターとらい拠点）伏見区桝形町435番１	平成26年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している	55,448,500	21,858,176	33,590,324
	（生活サポートセンターとらい拠点）伏見区鍛治屋町964番	平成27年度	第2種社会福祉事業である共同生活援助事業施設に使用している	18,443,790	5,938,884	12,504,906
	（京都いたはし拠点）伏見区西大黒町1035番14	平成24年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している	28,514,370	8,335,100	20,179,270
	（デイスポット楽拠点）山科区東野中井ノ上町1番17	平成29年度	第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している	434,699,574	103,724,399	330,975,175
	（生活サポートセンターほっと拠点）山科区東野中井ノ上町1番17の２	平成29年度	第2種社会福祉事業である共同生活援助事業施設に使用している	102,100,484	30,860,209	71,240,275
	（京都市だいご学園拠点）伏見区醍醐辰巳町7番1の２	平成30年度	第2種社会福祉事業である就労支援事業施設等に使用している	191,633,061	41,830,675	149,802,386
			小計	1,062,436,550	297,552,361	764,884,189
定期預金	京都銀行九条支店		基本金			1,300,000
基本財産合計						1,292,624,860

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
(2) その他の固定資産						
建物	施設		第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している			90,557,176
構築物	施設		第2種社会福祉事業である生活介護事業施設等に使用している			26,861,782
機械及び装置	就労施設		機械等			7,255,721
車輌運搬具	トヨタハイエース、日産キャラバン等90台		利用者送迎用他			17,825,507
器具及び備品	施設		空調設備等			28,408,240
建設仮勘定	本部事務局		土地購入手付金（伏見区聚楽町）			12,508,000
権利	電話加入権・敷金		賃貸物件等			3,268,089
ソフトウェア	本部事務局		財務ソフト・情報システム等			1,804,038
投資有価証券	京都中央信用金庫		出資金			10,000
経営安定化積立資産他	有価証券　大和証券京都支店		将来における施設整備等の目的のために積み立てている有価証券他			481,141,561
長期前払費用	東京海上日動火災保険（株）		火災保険料等			1,898,193
その他固定資産	リサイクル預託金		利用者送迎車等			132,340
その他の固定資産合計						671,670,647
固定資産合計						1,964,295,507
資産合計						2,967,540,145
Ⅱ 負債の部						
1 流動負債						
事業未払金	職員給与3月分等					68,974,778
その他の未払金	固定資産取得の未払					6,690,700
1年以内返済予定設備資金借入金	京都中央信用金庫					33,099,000
1年以内返済予定リース債務	本部事務局・リース					
未払費用	社会保険料等					8,608,110
預り金	講師等・源泉所得税					649,050
職員預り金	職員・社会保険料等					12,719,521
前受金	グループホームふしみ寮利用料他					385,000
賞与引当金	令和４年度職員賞与引当金					53,209,653
流動負債合計						184,335,812
2 固定負債						
設備資金借入金	京都中央信用金庫					506,990,000
固定負債合計						506,990,000
負債合計						691,325,812
差引純資産						2,276,214,333

「身体障害者福祉センター（Ｂ型）」
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
エ洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」拠点（社会福祉事業）
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
オ京都市伏見障害者デイサービスセンター拠点（社会福祉事業）
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
カ京都市山科障害者デイサービスセンター拠点（社会福祉事業）
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
キデイスポット楽拠点
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
ク京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」拠点（社会福祉事業）
「障害者地域生活支援センター（京都市委託相談支援事業）」
「地域移行支援事業」
「地域定着支援事業」
「計画相談支援事業」
「障害児相談支援事業」
ケ京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」拠点（社会福祉事業）
「障害者地域生活支援センター（京都市委託相談支援事業）」
「地域移行支援事業」
「地域定着支援事業」
「計画相談支援事業」
「障害児相談支援事業」
コ生活サポートセンター「ほっと」拠点（社会福祉事業）
「居宅介護事業」
「重度訪問介護事業」
「行動援護事業」
「同行援護事業」
「移動支援事業（地域生活支援事業）
「共同生活援助事業（グループホーム「あんど」）」
「短期入所事業（共同ホーム「あんど短期入所事業」）
「レスパイト事業（公益事業）」
「居宅介護従業者養成研修事業（公益事業）」
「福祉有償運送事業（公益事業）」
「放課後等デイサービス事業（放課後等デイサービスすてーじ）」
サ生活サポートセンター「とらい」拠点（社会福祉事業）
「居宅介護事業」
「重度訪問介護事業」
「行動援護事業」
「同行援護事業」
「移動支援事業（地域生活支援事業）」
「共同生活援助事業（グループホーム「ふしみ寮」）」
「福祉有償運送支援事業（公益事業）」
「放課後等デイサービス事業（放課後等デイサービス「らいと」）」

シ京都市洛南障害者授産所（社会福祉事業）
「就労継続支援Ｂ型事業」
「計画相談支援事業」
ス京都市伏見障害者授産所拠点（社会福祉事業）
「多機能型生活介護事業」
「多機能型就労継続支援事業Ｂ型事業」
セ京都市山科障害者授産所拠点（社会福祉事業）
「多機能型生活介護事業」
「多機能型就労継続支援事業Ｂ型事業」
「計画相談支援事業」
ソ京都市ふしみ学園拠点（社会福祉事業）
「生活介護事業」
「計画相談支援事業」
タ京都いたはし学園拠点（社会福祉事業）
「多機能型就労移行支援事業」
「多機能型就労継続支援事業Ｂ型事業」
「計画相談支援事業」
「就労定着支援事業」
チ京都市やましな学園拠点（社会福祉事業）
「多機能型生活介護事業」
「多機能型就労継続支援事業Ｂ型事業」
「計画相談支援事業」
ツ京都市だいご学園（社会福祉事業）
「多機能型就労移行支援事業」
「多機能型就労継続支援事業Ｂ型事業」
「計画相談支援事業」
テ京都市伏見社会福祉総合センター拠点（公益事業）
「京都市伏見社会福祉総合センター管理」
ト京都市山科合同福祉センター拠点（公益事業）
「京都市山科合同福祉センター管理」

６．基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	526,440,671	0	0	526,440,671
建物	810,617,998	0	45,733,809	764,884,189
定期預金	1,300,000	0	0	1,300,000
合　　計	1,338,358,669	0	45,733,809	1,292,624,860

７．基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し
該当なし

８．担保に供している資産

担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地（基本財産）	274,285,346円
建物（基本財産）	552,017,836円
計	826,303,182円

担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	488,444,000円
計	488,444,000円

９．有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地（基本財産）	526,440,671	0	526,440,671
建物（基本財産）	1,062,436,550	297,552,361	764,884,189
定期預金（基本金）	1,300,000	0	1,300,000
建物	184,037,519	93,480,343	90,557,176
構築物	45,890,400	19,028,618	26,861,782
機械及び装置	84,424,099	77,168,378	7,255,721
車輌運搬具	175,208,620	157,383,113	17,825,507
器具及び備品	196,259,008	167,850,768	28,408,240
有形リース資産	5,896,800	5,896,800	0
合　　計	2,281,893,667	818,360,381	1,463,533,286

１０．債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

（単位：円）

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金			
未収金			
未収補助金			
合　　計			

１１．満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、以下のとおりである。

（単位：円）

種類及び銘柄	帳簿価額	時　　価	評価損益
ﾉﾙｳｪｰ地方金融公社債（2025年5月20日満期）	100,000,000	55,930,000	△44,070,000
ﾉﾙｳｪｰ地方金融公社債（2025年6月4日満期）	100,000,000	56,190,000	△43,810,000
ﾉﾙｳｪｰ地方金融公社債（2025年8月4日満期）	150,000,000	81,840,000	△68,160,000
合　　計	350,000,000	193,960,000	△156,040,000

１２．関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は次のとおりである。
　該当なし

１３．重要な偶発債務
　該当なし

１４．重要な後発事象
　該当なし

１５．合併及び事業の譲渡若しくは事業の譲受けが行われた場合には、その旨及び概要
　該当なし

１６．その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項
　該当なし

令和４年度（２０２２年度）

事　業　報　告　書

社会福祉法人京都障害者福祉センター

令和４年度事業報告書

目　　次

NO	事業所名	ページ
１	本部事務局	1
２	地域生活支援センター「らくなん」・「らくとう」	5
３	京都市洛南身体障害者福祉会館	7
４	京都市洛南障害者授産所	9
５	洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」	10
６	京都市伏見障害者デイサービスセンター	11
７	京都市伏見障害者授産所	12
８	生活サポートセンター「とらい」	14
９	グループホーム「ふしみ寮」	15
１０	放課後等デイサービス「らいと」	16
１１	京都市ふしみ学園	17
１２	京都いたはし学園	18
１３	京都市山科身体障害者福祉会館	20
１４	福祉有償運送「京都ラクシヨーネ」	23
１５	京都市山科障害者授産所	24
１６	京都市山科障害者デイサービスセンター	26
１７	京都市やましな学園	27
１８	京都市だいご学園	29
１９	デイスポット「楽」	31
２０	生活サポートセンター「ほっと」	32
２１	共同ホーム「あんど」	33
２２	放課後等デイサービス「すてーじ」	35

令和４年度　法人本部事業報告書

１　法人決算概要について

（１）事業活動収入

給付費収入等は、新たなベースアップ等支援処遇改善加算 8 百万円及び新規利用者の受入による増等により、法人全体としては前年度を上回る 1,413 百万円（3 年度決算に比べ 15 百万円の増）となった。

補助金収入は、京都市の重度利用所補助金は減少（△17 百万円の減）したが、ベースアップ等支援処遇改善に係る臨時特例交付金 9 百万円などにより前年度並みの 35 百万円（△1 百万円の減）となった。

指定管理施設委託料収入等のその他事業収入は前年度並みの 108 百万円、就労支援事業収入は新型コロナウイルスの影響により減少していた販売や受注が回復し 142 百万円(17 百万円の増)となった。

その他は、利用者等外給食費収入や投資運用資金の年度末時価評価益等で前年度同額の 35 百万円となった。

以上により、事業活動収入の合計は 1,733 百万円（31 百万円の増）となる。

（２）事業活動支出

人件費は、定期昇給及び内部登用を含む正職員採用による増等により 1,275 百万円（20 百万円の増）となった。

その他の支出は、事業費・事務費は水道光熱費等の増により 236 百万円（18 百万円の増)、就労支援事業支出は原材料費等で 141 百万円（14 百万円の増)、その他は 16 百万円（前年度同額）となった。

以上により、事業活動支出の合計は 1,668 百万円（52 百万円の増）となる。

(3) 収支差額

事業活動収入 1,733 百万円から事業活動支出 1,668 百万円を差し引いた事業活動収支差額は 65 百万円の黒字（3 年度決算の収支差額 86 百万円の黒字から△21 百万円減少）となる。

事業活動収支以外の施設整備等収支では、車両補助金収入 3 百万円、借入金の返済金 36 百万円及び京都いたはし学園移転先用地購入の手付金・仲介手数料 13 百万円等の支出 67 百万円となり、これらを加えた当期資金収支差額は 1 百万円の黒字となった。

これに、その他活動の福祉積立金の支出及び取崩し等を行った後の当期資金収支は４百万円の赤字、当期末支払資金残高は 900 百万円となった。

法人全体の資金収支　　（単位 百万円）

区分			令和3年度 決算 A	令和4年度 決算 B	増△減 B－A
事業活動	収入	給付費収入等	1,398	1,413	15
		補助金収入	36	35	△1
		その他の事業収入	108	108	0
		就労支援事業収入	125	142	17
		その他	35	35	0
		計	1,702	1,733	31
	支出	人件費	1,255	1,275	20
		事業費・事務費	218	236	18
		就労支援事業支出	127	141	14
		その他	16	16	0
		計	1,616	1,668	52
	収支差額		86	65	△21
施設整備等	収入		3	3	0
	支出		51	67	16
当期資金収支差額			38	1	△37
その他活動	積立金支出等		10	6	△4
	取崩し収入等		3	1	△2
積立・取崩し後当期資金収支差額			31	△4	△35
当期末支払資金残高			904	900	△4

２　主な取組について

（１）　新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナ感染症との闘いも３年目に入り、流行期が繰り返すこととなった。令和４年８月に市内で過去最大となった「第７波」は９月以降減少に転じたが、１１月以降オミクロン株の派生型の出現による「第８波」で年末年始にかけ再び感染者が増加した。しかし３月時点では「第８波」ピーク時の１割以下まで減少しピークアウトした。

当法人においても、利用者や職員が感染する事例が発生したため、感染者が発生した都度、直ちに感染者との接触者を特定し、原則接触者全員に抗原検査を行うなど引き続き感染拡大の防止に努めた。下期は事業運営に影響がある臨時休所や通所自粛を要請するようなケースは大幅に減少した。

区　　分	陽性者等の報告件数	臨時休所 件数	通所自粛要請 件数
上 期 計	９０	７	１２
下 期 計	４９	０	６
４年度計	１３９	７	１８

（２）　指定管理者指定申請

当法人では、京都市の公の施設の指定管理者として、令和４年度は１０施設において指定を受け運営（指定管理期間は平成２９年４月から令和５年３月）を行っている。

引き続き指定管理者の指定を受けるため順次申請を行い、全施設が引き続き指定管理者として運営することとなった。（指定管理期間は令和５年４月から令和１１年３月）

また、令和４年度は他法人が指定管理者として運営している、「京都市うずまさ学園」及び「京都市太秦障害者デイサービスセンター」（指定管理期間：平成２９年４月から令和５年３月）について、現指定管理者から当法人に次期指定管理者への応募依頼があったことから、次期指定管理者の申請を行い、新たに令和５年４月から当法人が指定管理者として運営することとなった。

区　分	施　　設　　名
継　続	①山科身体障害者福祉会館、②山科障害者授産所、③やましな学園 ④山科障害者デイサービスセンター、⑤伏見障害者授産所 ⑥伏見障害者デイサービスセンター、⑦ふしみ学園⑧洛南授産所 ⑨だいご学園、⑩洛南会館
新　規	⑪うずまさ学園、⑫太秦障害者デイサービスセンター

（３）　うずまさ学園・太秦障害者デイサービスセンターの指定管理に向けた取組

うずまさ学園・太秦障害者デイサービスセンターの新たな指定管理については、令和４年８月に京都市より当法人が候補者に選定された通知を受け、令和５年４月からの運営開始に向け以下のとおり準備を進めた。

日　　付	内　　容
令和４年　８月	指定管理者選考結果通知（京都市が当法人を指定管理者候補に選定）
１０月	うずまさ学園利用者・家族説明会、職員説明会（右京区社協主催）
１１月	京都市会９月定例会で次期指定管理者選定の議決
〃	うずまさ学園・太秦障害者デイサービスセンター在職者の採用試験 （１２月合格発表）
令和５年　１月	職員説明会、利用者・家族説明会
３月	利用者・家族説明会
〃	京都市の事業所指定の認可
４月	次期指定管理の運営開始

（４）　京都いたはし学園移転候補地（伏見区聚楽町）の土地購入契約

京都いたはし学園については、民間施設を賃借して運営しているが建物の老朽化とともに狭あいなため作業スペースの確保が困難となっていること、また京都市監査において「民間から貸与を受けている不動産は、安定的な事業継続のため地上権又は賃借権の設定、又は１０年以上の建物賃貸借契約とすること」との指摘を受けており、いたはし学園の移転が法人の重点課題となっていた。

令和４年１２月に現学園の近接地に土地販売物件を確認し、購入に向けて検討を進め、令和５年２月の理事会で購入を議決し、同月不動売買契約書を締結した。

今後、令和５年９月までに南側隣地との境界を確定後に残金支払い、所有権の移転を行う予定であり、新施設の設計、建物・設備工事を行い令和７年４月の移転開所に向け取組を進める。

・購入土地（伏見区聚楽町６７２番地）、公募面積４２５.７８㎡

・購入金額　１５０百万円（令和４年度は手付金１０百万円支払済、残金は境界明示後に支払い）

（５）　定年延長と給与制度の見直し

現在、正職員の定年は６０歳であるが、昨今困難となっている福祉人材の確保と知識・技術・経験等が豊富な高齢職員の活用を図り、将来にわたり安定した経営を行うため、定年を６０歳から６５歳に延長するとともに給与制度の見直しを行った。この定年延長と給与制度の見直しの検討にあたっては、管理職が参画する経営プロジェクトチームを中心に具体案を策定し、令和４年１１月３０日に職場代表者会議を開催して職員に説明、１２月１５日の理事会で就業規則の一部改正等を議決した。

主な改正内容（令和５年４月１日施行）

・定年を６０歳から６５歳に延長（職員継続雇用規程は廃止）

・６０歳に達した年度を超える職員の期末勤勉手当の見直し（４.２０月分→２.５８月分）

・５５歳以上の定期昇給の停止、給料表（３級～５級）の上限号数の引き下げ（３０号→２５号）

・３級～５級職員の保障給の引き下げ

・６０歳に達した年度を超える嘱託職員の期末勤勉手当の見直し（２.８４月分→２.１０月分）

・６５歳に達した年度を超える嘱託職員の契約の非更新

（６）　第３期中期経営計画（令和４年度～８年度）の策定

平成２９年５月に１０年後の法人が目指す将来像として長期ビジョンを策定し、その実現に向けた道筋として「第２期中期経営計画」（平成２９年度～令和３年度の前期５か年）を策定した。

「第２期中期経営計画」では、社会福祉法人制度の改革に伴い、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の確保、財務規律の強化、地域における公益的な取組の推進を柱とし各事業所において取組を進めてきた。

前期５か年が経過したことに伴い、令和４年１２月に「第３期中期経営計画」(令和４年度～８年度の後期５か年)を策定した。

「第３期中期経営計画」では、（１）事業活動の推進、（２）施設整備の推進、（３）地域連携及び地域貢献、（４）人材の確保と育成、（５）働きがいがあり、魅力ある職場環境づくり、（６）財政基盤の確立、（７）組織ガバナンスの確立　を基本方針としてさらに取組を進めていくこととしている。

（７）　福祉・介護職員の処遇改善の実施

福祉・介護職員の処遇改善については、これまでから処遇改善加算制度を積極的に活用し、「処遇改善一時金」及び「特定処遇改善一時金」等を支給してきたが、さらに令和４年２月から、「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」の制度が設けられたことから、この制度を活用して正職員及び嘱託職員に対し令和４年２月から９月の間、毎月定額の「臨時処遇手当」（６、５００円／月）を支給し、パートタイマー職員には時給額の引き上げ（４０円／時）を行った。（ただし、令和４年２月分及び３月分は全員に一時金により支給）

なお、令和４年１０月からは、「ベースアップ等支援」として新たな処遇改善加算制度に位置付けられたため、当法人においても令和４年１０月以降は同制度を適用した。

（8）　プロジェクトチームおける経営改善等の検討

市補助金の削減や職員の人件費率の高まり、報酬制度の見直しなどで、法人を取り巻く経営環境は年々厳しさを増している。こうした中、法人が持続可能な組織として生き残りを図っていくためには、新規事業も含めた収入確保策、新たな給与体系構築も含めた経費削減策、６０歳定年の延長も含めた人材の確保と育成をバランス良く進めていく必要がある。こうした状況を踏まえて、令和３年５月に管理職が自主的に「経営」、「新規事業」、「人材育成」の３つのプロジェクトチーム（以下「ＰＴ」）を立ち上げ、各ＰＴで鋭意検討を進めた。

令和４年度では、「経営ＰＴ」においては、主に６０歳定年の延長や高年齢者等の給与制度見直し案の検討が行われ、令和４年１２月の理事会において就業規則を改正し令和５年４月から施行することとなった。また、「新規事業ＰＴ」では、将来の居宅介護事業の新設を視野にヘルパー人材の確保に向けた研修企画等を検討、「人材育成ＰＴ」では、職員育成の理念・方針や研修に関する新たな「職員育成要綱」や階層別の研修内容の企画等を検討した。

（9）　質の高い人材の確保

多様な求人情報ツールを活用し、人材の確保を目指すとともに、内部登用制度を継続し、意欲と能力のある職員を積極的に登用した。

区分	R4.4.1	R5.4.1	増△減	内　　訳
正職	143 名	154 名	11 名	新卒採用１名、退職△3 名 嘱託から正職へ登用４名、うずまさ学園採用９名
嘱託	24 名	27 名	3 名	外部採用４名、退職△2 名 嘱託から正職へ登用△4 名、うずまさ学園採用５名
合計	167 名	181 名	14 名	

（１０）　地域における公益的な取組

これまで、地域交流スペースとして「楽」「ひだまり」「ふらっと相談カフェ」の開設、地域連続講座や地域ふれあいまつりの開催、福祉有償運送ラクシヨーネの運行、実習生の受け入れなど各施設で創意工夫し特色のある取組を 21 事業実施しているが、令和４年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の取組が休止・延期や縮小せざるを得ない状況となった。

京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」（相談支援事業）

今年度前半は、昨年度と同様にコロナウイルス感染での対応が頻出した。強度行動障害者が罹患し対応に苦慮した事例、１人暮らしの知的障害者が罹患、ヘルパーが入れず相談員が代金立替で買物を行った事例、陽性であっても外出し近隣から苦情が出た事例等、様々な事例があった。その中でも 24 時間支援を要する利用者 2 名が罹患。1 名はすぐに入院になったが 1 名は入院出来ず、居宅支援が途切れ、代替策がなく相談員が入らざる得なくなり３日間支援を行った。後半９月より療養期間、濃厚接触待機期間が短縮された事で通常生活への移行が迅速となり、調整業務は負担が軽減された。

その他事例として、1 人親世帯で親子ともに障害がある事例や精神・知的の 1 人暮らしの事例で、家事援助ではなく共同実践で行う事により、他者への信頼感、自己への効力感が高まり生活が豊かになる事を目の当たりにする事ができた事例が複数あった。

■今年度の事例において特徴のある事例…依存傾向にある方の支援について

・アルコール依存で飲酒を繰り返し、命の危険性がありながら、連続飲酒が止められない事例。断酒に向けた気持ちの整理や今後の生活について一緒に考える中で、本人と向き合うと同時に相談員自身も自分と向き合い、何がより良い支援であるのか考える事例であった。関係機関と密な連携を図りながら、状況・状態の推移を見守っている。

・サービスにつながらず、15 才から引きこもり状態にあり、数年前に１人暮らしになった発達障害の事例。中学生の時に傷つき体験があり、その事に囚われ、一人暮らしを開始した際は他者との関わりを拒否することが多かった。継続的に関わり続ける中で、最近は自分の気持ちや過去の行動を整理できるようになってきた。また、B 型へ通所するようになり、社会とのつながりもできつつある。本人にとってはまだ生きづらさはあるようが、他者との関わりを通して少しずつ前向きに生活しようとする姿勢が見られている。

■相談支援内訳

	制度説明	居宅生活		施設	地域移行	自立生活	教育保育	就労	福祉用具	住居	介護保険		医療	金銭管理	その他	合計	*3年度*
		居宅介護等	その他								居宅	施設					
身体障がい者	5	1849	792	251	0	7	10	13	28	97	9	3	827	58	1838	5787	*6249*
知的障がい者	1	201	252	473	2	15	7	126	7	197	0	0	477	128	2666	4552	*4371*
精神障がい者	3	243	714	312	0	0	9	87	9	204	0	0	984	216	2249	5030	*5034*
重複障がい者	2	1669	181	821	0	1	5	14	74	48	0	0	683	37	2796	6331	*6113*
障　がい　児	3	53	532	169	0	0	104	0	3	2	0	1	141	1	687	1696	*752*
そ　の　他	0	8	1	1	0	2	0	0	0	4	0	0	6	2	223	247	*555*
合　　計	14	4023	2472	2027	2	25	135	240	121	552	9	4	3118	442	10459	23643	*23074*

■京都市中部地域自立支援協議会（事務局［庶務］）

支援センター「にしじん」「なごやか」と事務局を担い、専門部会として医療的ケア専門部会、児童専門部会、災害支援専門部会、グループホーム専門部会、相談支援専門部会、地域課題研究会、就労支援専門部会の７部会がある。その内の３部会（児童、災害、就労）を事務局として企画運営を行った。

■【独自事業】プラットフォーム推進事業

令和元年度から南区内のネットワーク作りの一環として南区社協、南区役所、洛南障害授産所、らくなんを事務局とし、ネットワーク会議を実施している。令和４年度は、４月、６月に、対面会議と Discord 学習会を行い、その SNS で情報共有を行った。

京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」（相談支援事業）

「らくとう」の担当する東部圏域（東山区・山科区・伏見醍醐地域）の相談傾向としては、高齢分野から介護保険と障害福祉サービス併用のケース相談、児童分野からは虐待の経過のある障がい児、医療的ケア児のサービス調整等幅広く相談を受け付けた。また新規相談が月平均 20 件と増えており、新規相談対応に追われる日々だった。

基幹型センターの取り組みとしては、圏域の相談員の横のつながりやスキルアップのための研修を圏域の主任相談支援専門員と企画した。

地域自立支援協議会では、総合支援学校と協働して『福祉サービス事業所フェア』を動画配信で開催し、施設見学が難しい生徒や家族、また学校の先生方に圏域の施設を知っていただく機会となった。

次年度については、社会全体の動きを注視しながら、対面で実施できる研修を可能なところで実施し、顔と顔の見える関係性を約３年ぶりに再構築していきたい。

■障害福祉の支援が届きにくい方の住居の支援

矯正施設から出所した方、精神科の長期入院をしていた方、保証人や緊急連絡先がなく、金銭的な余裕のない方の住まい探しには困難が立ちはだかるが、圏域でできたシェアハウス（障害者対象）の紹介や、保証人のない方でも住まい探しをしてくれる不動産会社に仲介頂き、入居できたケースが複数あった。

■医療ケアの必要な方の相談

昨年に引き続き医療的ケア児の相談が多くあった。就学前の相談としては、幼稚園への登園の相談や、養護者の緊急時の支援体制についての相談があった。就学後の相談では、学校とのやり取りや在宅の支援体制をどのように整えるのか、放課後等デイサービスとの連携・調整のやり方についての相談が多くかった。受け入れる資源が不足する中で、家族や学校、福祉、医療関係者と話し合いを重ね、工夫を凝らしながら取り組みを行った。

■相談支援内訳(年間)：自立生活の相談が増えた。

	制度説明	居宅生活		施設	地域移行	自立生活	教育保育	就労	福祉用具	住居	介護保険		医療	金銭管理	その他	合計	*3年度実績*
		居宅介護等	その他								居宅	施設					
身体障がい者	71	993	46	64	0	0	1	34	57	36	18	7	269	45	807	2448	*2613*
知的障がい者	101	912	159	585	5	80	40	115	16	160	25	6	416	392	2333	5345	*8091*
精神障がい者	92	540	113	249	20	42	39	141	26	212	13	17	938	375	1527	4344	*3693*
重複障がい者	66	1404	42	437	2	129	19	27	124	162	3	6	932	235	2335	5923	*9283*
障　がい　児	48	715	26	568	4	20	552	36	97	25	21	0	417	52	1486	4067	*3265*
そ　の　他	87	171	53	32	5	13	9	25	18	72	63	0	403	46	543	1540	*669*
合　　計	465	4735	439	1935	36	284	660	378	338	667	143	36	3375	1145	9031	23667	27614

■京都市東部障害者地域自立支援協議会（事務局：らくとう）

東部圏域の支援センターとともに事務局として、今年度は庶務を担当した。部会運営に関しては支援センター部会、触法障害者専門部会、児童部会、災害部会、グループホーム部会、医療的ケア部会の企画運営をした。

■「らくとう」の独自事業　あそびの広場

山科区子どもはぐくみ室・山科区社会福祉協議会・らくとう・だんごやましなクラブの４つの機関が協力して「障がいのあるなしに関わらず子どもたちの余暇支援」「保護者同士の交流」を目的に「あそびの広場」を開催した。春季休暇に、地域にある就業継続支援Ａ型事業所の場所を提供いただきミニ運動会とボッチャ体験の内容で実施した。

京都市洛南身体障害者福祉会館

事業概要

京都市洛南身体障害者福祉会館では、設立の目的である「地域で生活する障がいのある人の憩いの場と交流の場」になるよう、各種行事・講習会・貸室・京都市重度障害者移動支援事業・京都市重度障害者入浴サービス事業・京都市就労に向けた障害者向けＩＴ教室等事業を実施した。

（１）会館利用者の増加を図るため、新規利用者の確保

（２）会館事業についての広報の充実

（３）地域貢献事業の更なる拡大

以上を目標に、会館が地域の福祉拠点となるよう運営を行った。

（1）について、令和４年度の新規登録者は７名（令和３年度４名）と令和元年度より一桁が続いたままとなっている。利用延べ人数は３７，３２６名（令和３年度３４，１２３名）で、新型コロナウイルスの影響から減少を続けていたが、ようやく回復の兆しを見せた。ただし、感染症予防対策については今後も軽視することなく十分に配慮するとともに、慢性的な利用人数の減少については既存の利用者の高齢化と、新規登録者が減少を続けていることについて、会館の役割を熟慮し、現状のニーズに合わせた運営を心掛けていく必要がある。

（２）現在、広報のツールとしては、ホームページ・Facebook・会館だより・館内の掲示・通りに面した掲示板の活用と多岐に亘っている。加えて４月からは「公式 LINE」の登録を活用し、告知物の一斉配信やメールに変わるレスポンスの良い通信ツールとして一部の方にご利用いただいている。

（３）地域貢献事業としては、感染予防の観点により、今年も中止となる年中行事があったが、防災避難訓練を 2 年ぶりに実施することができた。また、同様に 2 年に亘って中止となっていた「地域ふれあい夏まつり」は今年度も中止となったが、近隣の福祉施設との協議により、別の形で「地域ふれあい秋まつり」として開催することができた。感染予防に十分配慮し、開催時間の短縮や、飲食を行わないなどの規模縮小はあったが、賑わいと共に地域との関わりを持つ機会を得た。また、中止となる年中行事の代替策として、単発行事を月３回のペースで開催し、地域の方にも参加を呼びかけ、地域の方々と障害のある方々が共に楽しめる活動の機会を持った。

①年間利用状況

事業日数	実利用者人数	平均利用者数/日	備　　考
283 日	36,183 人	127.9 人	

②職種別職員数

区　分	管理者	支援員	計
常勤職員	1	3	4
非常勤職員		1	1

③事故、苦情

事　故	物損事故：なし	人身事故：なし
苦　情	な　し	

京都市洛南身体障害者福祉会館　多機能型事業（生活介護・就労継続支援Ｂ型）

事業概要

７月下旬に、職員８名、ご利用者１名が新型コロナウイルスに感染し、職員は常勤 11 名中６名が感染したため、生活介護は職員数が足りず、７日間（営業日）開所できない状態になった。その後は換気に重点を置き、ご利用者、職員ともに時々感染者や濃厚接触者が出たが、年明けからは比較的落ち着いて過ごしている。

コロナ感染予防の対策が徐々に増える中、時に提案もいただき、ご利用者のみなさんにコロナ対策についてご協力いただけた。

生活介護ご利用者の活動ニーズについて、午前は運動、午後は作業を希望される方が年々増え、現在登録 22 名中１８名が作業に携わっておられる。平成 27 年に現在の体系がスタートし、ニーズに合わせて試行錯誤を繰り返してきたが、現状のスタイルがグループ構成も含めて完成形となりつつある。

実績表

年間利用状況（期間：令和４年４月１日～令和５年３月 31 日）

	定員	在籍者数	事業日数	実利用者人数	１日あたり	利用率
生活介護事業	10 名	22 名	244 日	2,741 人	12.4 人	112.3%
就労継続Ｂ型事業	10 名	15 名	244 日	2,473 人	12.2 人	101.4%

① 職種別職員数：生活介護事業（令和５年３月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	支援員	看護職員	医師	計
常勤職員	兼１	兼１	２・兼５			９
非常勤職員			３・兼５	兼１	１	１０

職種別職員数：就労継続支援Ｂ型事業（令和５年３月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	目標工賃達成指導員	職業指導員	支援員	計
常勤職員	兼１	兼１	兼２	１	兼３	８
非常勤職員					兼２	２

② 生活介護事業　利用者障害支援区分（令和５年３月末現在）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
人数	０	０	３	４	５	10

③ 就労継続支援Ｂ型事業　授産事業の概要（期間：令和４年４月１日～令和５年３月 31 日）

売上収入	支　出			差　引	平均支払い工賃額(月額/一人)
売上収入	必要経費	工賃(賞与含)	支出合計		
2,500,126	346,766	1,766,720	2,113,486	386,640	10,497

④ 事故、苦情

物損事故　０件	事故　　１件	苦情　　０件

令和４年度事業報告書　　京都市洛南障害者授産所

高工賃と一般就労に向けてのステップアップを求める利用者ニーズを受け事業運営を行った。授産事業に関しては、新規受注先の開拓や、各種イベントの再開等により、前年度並みの売上を確保出来ました。各種行事においても規模、内容を検討しながら実施し、地域との繋がりも最低限の範囲で持つことが出来ました。７月末に新型コロナウイルスの集団感染があり、在宅就労以外の利用者に通所を控えていただく等授産事業を含め大きな影響を受けました。

１．授産事業について

授産事業の売上総額については、新規顧客獲得等で、受託部門は増加したものの印刷部門は微減で、昨年度比約 0.1%増となりました。しかし原材料費の高騰等が影響し収支差額は前年度より減少しました。各種イベントが再開される等、作業確保にはよい傾向となっていますが、コロナ禍前の売り上げにあと一歩といった状況でした。

２．利用者動向について

定員超える 31 名でスタートしました。利用ニーズの多様化により週に３日前後の利用希望があり、比較的空いてる曜日・時間帯で１名の新規利用者の受入れを行いました。年度内に他事業所への理由により２名が退所されました。年間を通して通所率は 115%と安定した受け入れを行う事が出来ました。

３．就労支援について

今年度も一般就労した方はおられませんでした。一方、利用者同士で社会人としてのマナーや基礎知識を教え合う場を設ける等就労意欲の向上に繋げました。過去に授産所から一般就労した方について、適宜相談に応じました。例年行ってきたＯＢ会については、新型コロナウイルスの影響を受け中止しました。

４．その他（地域貢献事業）

今年度も新型コロナウイルスの影響を受けましたが、その中でも出来る事を模索していきました。例年開催している「地域ふれあい夏祭り」に関しては、内容や規模を変更し「地域ふれあい秋祭り」とし１１月に開催しました。唐橋地域包括支援センターの職員の方に研修を依頼したり、南区プラットフォーム推進会議や地域ケア会議に参加したり、町内会の方にマンホールトイレ設置訓練に参加して頂くなど、地域の社会資源を活用する取り組みを行いました。

＜日帰りレクの様子＞

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日当たり	利用率
260	20	30～32	5,990	23.1	115.2%

②職種別職員数

	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	職業指導員	生活支援員	目標工賃達成指導員
常勤職員	１（兼）	１	１	１	１
非常勤職員			３	５	

③授産事業の収支等

	収入	支出			差引	平均支払工賃額（月額）
	売上	必要経費	工賃	支出合計		
印刷部門	45,224,043	36,563,299	5,587,200	42,150,499	2,968,819	44,343
受託部門	8,300,492	1,478,268	8,134,600	9,612,868	▲1,312,376	33,230
計	53,524,535	38,041,567	13,721,800	51,868,092	1,656,443	37,126

④事故、苦情

事故	物損事故	４件	人身事故	０件
苦情	なし			

⑤利用者の障害程度区分（人）

未判定	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
１７名	０名	３名	１名	３名	３名	３名	３０名

令和４年度　事業報告書
洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」（生活介護事業）

事業概要

令和４年度は一年を通し利用登録者数 35 名で増減はありませんでした。

前年度に引き続き、令和４年度も新型コロナウイルス感染防止に徹した一年でした。しかし、令和３年度は濃厚接触に伴う PCR 検査等の対象者が多数出た時は事業規模の縮小のため通所自粛要請等ご利用者にお伝えし協力して頂いた事が多くありましたが、令和４年度に関しては事業所内で感染者が発生しても障害保健福祉推進室とも相談し通所自粛要請する事なく運営ができました。一方で、８月から２月にかけご利用者 14 名、職員７名のコロナ陽性が判明。幸いにも感染発覚後、早期に接触者と考えられる利用者や職員に抗原検査を実施するなどの対応をした結果、事業所内で感染拡大する事なく運営を続ける事ができました。

日中活動においては、コロナ前とまではいきませんが、卓球バレーの再開等、新型コロナ感染を配慮しながら徐々にいつもの活動を再開できた事も大きく変わった一年だったと思います。ただ行き先まで決定していた秋のグループ外出が直前での中止や「あすなろ」で一番大きな外出行事である新年の「あすなろ食事会」について、新型コロナ感染の影響で実施を見合わせた事は残念です。外出行事を含め、再開を楽しみに待たれているプログラムもまだ多くあります。創意工夫しながら再開を目指して行きたいと思います。

クリスマス会

書初め

創作活動（ハロウィーンリースづくり）

実績表

①年間利用状況（令和４年４月１日～令和５年３月３１日）

生活介護事業（定員 20 名）	事業日数	実利用者人数	利用率
	243 日	4,344 人	89.4%

②曜日別登録者数　登録者数 35 名（支援区分５：５名　支援区分６：30 名）：令和５年３月末現在

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	計（延べ）	一日平均
20	19	20	20	20	99	19.8

③職種別職員数（令和５年３月末現在）

	管理者	サービス管理責任者	支援員	看護職員	医師	計
常勤職員	1	1	6			8
非常勤職員			9	2	1	12

④事故、苦情

車両物損事故	車両人身事故	支援中の事故	利用者の所有物に係る事故（破損等）	苦情
３件	０件	１件	２件	０件

令和４年度 事業報告書
京都市伏見障害者デイサービスセンター（生活介護事業）

１．事業内容

2022（令和４）年度は、新型コロナウイルスの感染状況が一進一退を繰り返す中、コロナ禍でも少しずつ以前の生活を取り戻せるよう、様々な模索（“ウィズコロナ” への転換）が行なわれた一年となった。内容的には引き続き多くの事業や行事が中止となったが、昨年度中断していた茶話会や、３年ぶりの外出行事（夏レク）、介護等体験実習生の受け入れ（後期のみ）など、いくつかの行事・事業については実現させることができ、祝日開所についても２月に一度行なうことができた。

また、近年利用者および家族の高齢化が進み、特に今年度は施設入所やグループホーム入居、一人暮らしなどに移行される利用者が複数名おられた。当施設も入居先や居宅事業所等との連携を図り、生活環境の大きな変化に寄り添う支援に様々な形で尽力している。

２．支援や取り組みについて

令和４年度も安心安全な環境を整え、利用者のニーズや特性に合わせて、楽しく快適で内容豊かな日中活動の実現を目指した。実施に際しては昨年同様にコロナ対策で行なえなかった活動もあったが、今年度は３年ぶりの外出行事や実習生との交流などを楽しんでもらうことができた。

また、分室も調理活動などが引き続き自粛となったが、身辺自立に必要な生活行動の練習や他者との適切な関わり方など、これまで積み重ねてきた経験をそれぞれの生活の中でも役立てることができた。

〔ニューイヤー茶話会〕

３．主な行事、地域における公益的な取り組みや実績など

当施設がこれまで行なってきた様々な地域公益活動については、今年度もコロナ禍により全て中止となった。また、近隣小学校での「車いす体験事業」も、昨年度に続いて当施設の職員や利用者は不参加となった。

４．研修・訓練等

今年度も新型コロナによる影響が大きかったが、相談支援や強度行動障害研修など、開催された研修のうち重要なものから優先して受講した。また、オンライン視聴や ZOOM を活用した研修にも参加した。

５．設備改善等

職員事務所に業務用パソコン４台を購入。また、デイルーム含めセンター１階の照明をＬＥＤに交換。

６．その他

①利用状況

事業日数	定員	在籍人数	総利用者数	一日平均	利用率
244 日	20 人	34 人	4,673 人	19.1 人	95.8%

②利用者の障害支援区分

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
0	0	0	２名	８名	24 名	34 名

③職種別職員数

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医	計
常勤職員		1	7	1		9
非常勤職員	1（兼務）		11（換算 4.7）	2（兼務）	1（兼務）	15

④事故・苦情

物損事故	人身事故	支援中の事故	苦情
２件	0 件	１件	0 件

2022年度　事業報告

京都市伏見障害者授産所（生活介護型）

① 事業内容

2022年度も引き続き新型コロナウイルスの流行による影響を受けてスタートする形となりました。その為、行事の中止・縮小、作業内容の見直しなどの対応に追われることになりました。2023年度はコロナの影響も少なくなると思われコロナ以前の活動に戻し、より利用者の方に満足して頂けるような支援を行っていきます。

（作業支援）

作業支援としては、新型コロナの影響はあった物の少しずつですが作業も戻ってきており、新たな作業も受注することが出来たため利用者の方に幅広い作業に携わってもらうことができた。また、作業効率だけを追い求めるのではなく分室を利用し、１対１で作業支援をして出来ることが増えるという喜びを感じてもらうことが出来ました。2023年度以降も利用者の方のやりたいという気持ちを大切にして可能性を広げる支援を行っていきます。

（生活支援）

2022 年度も入所・退所された利用者の方はおられず現状と変わらないメンバーで１年を送ることが出来ました。コロナの影響を受け通所を控える方はいましたが在宅支援という形で支援を継続し、2021 年度と同じ通所率でした。また余暇活動においては、コロナが落ち着いている時にレクリエーションを実施することができました。楽しそうに過ごされている姿を見て、レクリエーションの重要性を再認識しました。さらに、生活面での支援においては、2022 年度も相談支援事業所等と連携し、「将来を見据えた地域での生活」を円滑に行なえるよう支援を行いました。

レクリエーション（アクトパル宇治）

② 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日当たり	利用率
243 日	６人	10 人	1,589 人	6.54 人	108.9%

③ 職種別職員（人）

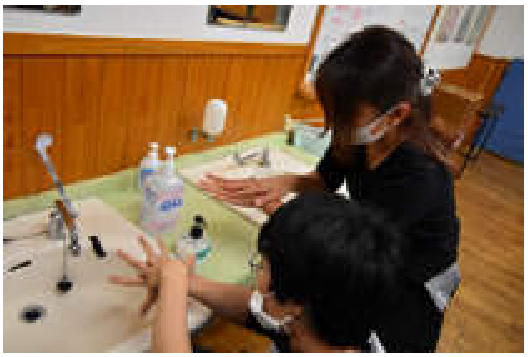
	所長（兼務）	サービス管理責任者（兼務）	生活支援員	看護師（兼務）	嘱託医（兼務）
常勤職員	１名	１名	３名（常勤換算 3.0）	１名	
非常勤職員			４名（常勤換算 1.8）		１名

④ 事故、苦情

事故	物損事故：１	人身事故：なし
苦情	な　し	

⑤ 利用者の障害程度区（人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
0	0	0	3	7



分室プログラム（手の洗い方）

2022 年度　事業報告

京都市伏見障害者授産所（就労継続 B 型）

① 事業内容

2022年度は新たに新卒の利用者2名を受け入れることが出来、利用率も114%と向上しました。ただ、引き続きコロナの影響を受ける形となり行事の中止・縮小、作業内容の見直しなどの対応を行いました。2023年度はコロナの影響も少なくなると思われコロナ以前の活動に戻し、より利用者の方に満足して頂けるような支援を行っていきます。

② 授産事業

2022 年度は、増収増益で１年を終えることが出来、利用者の方の平均工賃も 2021 年度より 2,000 円以上向上することが出来ました。コロナの影響も残り物価高騰のあおりも受け厳しい状況は続きますが、そんな中でも利用者の方の可能性を信じて、能力を引き出せる支援を心がけて行きます。

③ 利用者支援

2022 年度も「とっておきの芸術祭」に作品を出展おいて、個人で出展した作品が「京都府知事賞」を受賞することが出来ました。その創作活動を含む分室活動も好評を得ており利用者の方のモチベーションアップに繋がっています。

2022年度 入所式

① 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	1 日あたり	利用率
247 日	14 人	17 人	3,934 人	15.9 人	113.8%

② 職種別職員（人）

	所長（兼務）	サービス管理責任者（兼務）	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	嘱託医（兼務）
常勤職員	１名	１名	１名	１名（常勤換算 0.9）	１名	
非常勤職員						１名

③ 授産事業の収支等

区分	収入額	支出額		差引	平均工賃
		経費	工賃		
印刷事業	12,690,825	8,373,368	1,318,700	2,998,757	27,498
そ の 他	2,952,692	648,717	3,482,400	－ 1,178,425	22,046
計	15,643,517	9,022,085	4,801,100	1,820,332	23,310

④ 事故、苦情

事故	物損事故：１件	人身事故：なし
苦情	な　し	

⑤利用者の障害程度区分（人）

未判定	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
8	0	0	1	3	4	1

とっておきの芸術祭 授賞式

2022 年度　　事業報告
生活サポートセンター『とらい』
（居宅介護　重度訪問介護　行動援護　同行援護　移動支援）

事業概要

利用者が居宅において自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、「入浴、排せつ及び食事等の介助」「調理、洗濯、掃除等の家事」「生活等に関する相談・助言」「移動の支援」「その他の生活にわたる援助」を適切かつ効果的に行うようにつとめた。居宅介護事業所は、障がいのある人にとって、とりわけ一人暮らしやご家族が高齢になってきた人にとっては、より充実し安心して地域生活を送るために重要な役割を持っている。より一層、安全で質の良い支援を提供できる体制づくりに努めたい。

今年度の派遣時間は年間で約 560 時間減少（-4.3%）している。内訳では、外出支援（行動援護・移動支援など）で約 100 時間の減少。居宅介護等が約 460 時間の減少であった。

給付費等の収入は約 180 万円減少（-2.9%）している。

派遣時間の減少は、常勤職員（嘱託）を 1 人減らした職員体制を見直しに対応するためで、派遣先の調整を行った。また、残業時間が減るようにも工夫し、年間で 700 時間の残業を減らした。常勤職員の配置減と残業の減少で、人件費は 280 万円程減っており、減少幅が給付費等の減収を上回り、収支としては黒字が増える結果となった。

通院やショートステイの送迎など、低額料金で車での移送を行う福祉有償運送を実施した。2022 年度は、410 回の支援を行った。ヘルパーでの支援を並行して行い、利用者の活動範囲を広げることができた。

新型コロナ感染症の発生について、年間を通しては、職員３人・登録ヘルパー1 人の感染者数となった。感染が疑われる従業員は検査結果が出るまで業務に従事できず、通所先の感染状況や検査による通所自粛の影響で追加支援が必要となる等、ヘルパー確保が大変な 1 年であった。

現在も新型コロナ感染症は収束しておらず、さらなる感染予防の徹底に努めていきたい。

間利用状況

事業日数	派遣時間（年間）			派遣件数（年間）	
	介護給付費	地域生活支援事業	合計	介護給付費	地域生活支援事業
365 日	9114.5	9181.0	12295.5	6666	2031

②利用者の内訳（2023 年３月利用：重複あり）

身体介護	家事援助	通院等介助	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援・伴う	移動支援・不伴
14 人	5人	14 人	1 人	24 人	3 人	39 人	6 人

③職種別職員数（2023 年３月）

管理者	サービス提供責任者	常勤ヘルパー	登録ヘルパー
1人	4人	4人	19人

④事故・苦情

事故	1 件（支援中の職員のケガ）
苦情	0 件

２０２２年度　事業報告

グループホーム「ふしみ寮」　　共同生活援助

事業概要

今年度は、鍛冶屋町のグループホームを利用されている方が入所施設のご利用のために退所された。その後にふしみ寮の利用を開始された方は、宿泊体験の年間を通して利用されていたこともあり、新しい生活にすぐになじんでいただくことができ、ふしみ寮全体としては、安定して過ごしていただけていた一年であった。

新型コロナウイルス感染症については、利用者２人の感染があったが、１人はサテライト型の利用者で、もう１人は帰寮から数時間で感染を確認したため帰宅していただいたということで、感染の広がりはなかった。このため、感染症の影響での利用数の減少はほとんどなかった。

介護給付費等収入は、年間では約２００ 万円増加している。年間の利用者数は前年度より約100 人増えている。これは前年度よりも感染症の影響が少なかったことによる。

職員体制では、泊り勤務ができる世話人・生活支援員が必要数確保できていた。

支援の面では、日中活動のための活力を保つ生活の場であることを意識し、利用者がゆっくりと過ごせる支援を心掛けた。

新型コロナ感染症への対策として、検温や消毒などの徹底を行ったが、年間を通しては、利用者２人・職員１人の感染者数となったが、感染経路は通所先での感染の可能性が高いケースや感染経路不明であり、事業所内での感染は見られなかった。引き続き感染予防の徹底に努めていきたい。

①年間利用状況

ふしみ寮桝形町　及び　ふしみ寮鍛冶屋町

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数	利用率
３５８日	９人	８人	２４５７人	６．９人	８５．８

※別に体験利用で延べ 42 人

サテライト型

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数	利用率
３６１日	１人	１人	３６１人	1.0 人	１００．０

②利用者の障害程度区分

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
				６人	３人	９人

③職種別職員数（２０２０年３月）

職種	配置人数	常勤換算
１．所長	１名（兼務）	
２．副所長	１名（兼務）	
３．サービス管理責任者	１名（兼務）	
４．世話人	２０名（兼務）	１．７
５．生活支援員	１７名（兼務）	２．４

④事故・苦情

事故：０件　　苦情：なし

令和４年度　事業報告

放課後等デイサービス『らいと』　　放課後等デイサービス

事業概要

「児童福祉法」の理念に基づいて、学校通学中の障がい児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための支援を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障がい児の自立を促進するとともに、放課後等に充実して過ごせる場となるように取り組んだ。

昨年度に引き続き、プログラムの充実に重点的に取り組み、家族からも希望の多かった公園などでの外遊びや学習の時間など、個別にあったプログラムを重視して取り組んだ。プログラム活動時は、安全を第一に考え、環境設定やプログラムなどを工夫して支援を行った。

今年度もコロナウイルス感染症に対する感染予防に細心の注意を払い、土曜、学校休校中の受け入れ態勢の変更や送迎車内、事業所内での環境設定、支援プログラム実施にも感染対策を講じた。また、通所時の検温・手洗い、アクリル板の設置(おやつ時)等の衛生管理ついて取り組み、感染拡大防止に努め利用者に安定したサービスを提供することができた。

創作活動

壁面創作：こいのぼり

学習

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	延べ利用人数	平均利用者数	利用率
２９１日	１０人	２８人	２５８８人	８．９人	８８．９％

②利用者の年齢・性別（令和５年３月）

	男	女	計
小学生（低学年）	１	５	６
小学生（高学年）	４	１	５
中学生	９	１	１０
高校生	３	４	７
計	１７	１１	２８

③職種別職員数（令和５年３月）

職種	配置人数	常勤換算
管理者（所長）	１人（兼務）	
児童発達支援管理責任者	１人（常勤）	１　人
児童指導員・保育士・他	７人（常勤３人・非常勤４人）	４．０人
看護師	２人（非常勤）	０．４人
指導員補助	２人（非常勤２人）	０．３人

④事故・苦情

支援に関する事故	０件
車両事故	４件　　物損
苦情	０件

令和４年度事業報告
京都市ふしみ学園（生活介護事業）

１．総括

今年度も学園が目指すべき方向性…①『「働き」「役割」を通した自己肯定感・自己有用感の向上』　②『「多様な経験」を通した主体的な生活（自己選択）への支援』　③『「健康の保持」をねらいとする運動プログラムの積極的な導入』　に基づき、利用者支援を行った。各班の職員が利用者の置かれている状況や障がい特性に応じた対応を行い、様々なプログラムを組み合わせることで情緒の安定や生活スキルの向上、運動機能の維持に繋げた。また強度行動障害のある、対応の難しい方への支援にも尽力し、日々の暮らしが安定するような日中活動を心掛けた。成果として、支援学校卒業生の利用希望の声も多く聞かれ、毎年新たな利用に繋がっている。

新型コロナウイルス感染防止に奔走しながら、クラスターの発生や施設休所することなく１年間運営することが出来た。学園の活動が制限される中、少しでも楽しんでいただく時間を増やすため、分室班にて小規模なレクリエーションを実施した。また「クリスマスワークショップ」を実施するなど、日常を取り戻すための活動にもわずかながら注力することができた。

２．年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日あたり	利用率	就職者数
244 日	55 名	70 名	14,774 名	60.5 名	110.1%	0

3．生産活動事業収支

令和４年度	収入	工賃支払総額	平均工賃月額
受託事業	10,731,411	2,487,239	2,960 円

4．職種別職員数

	施設長	サービス管理責任者	生活支援員（常勤換算）	看護師	嘱託医
常勤職員	１（兼）	２	12		
非常勤職員			17（8.4）	１（兼）	１

5．事故・苦情

事故	車両事故：５件　　事業事故：７件
苦情	０件

6．利用者の障害支援区分

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	平均区分
０名	３名	21 名	31 名	15 名	4.87

令和４年度事業報告

京都いたはし学園（就労移行）

１．総括

【就労移行】

今年度は一般就労に移行された方が５名と多くの方が社会へと巣立って行かれた。コロナ禍で実習の中止が相次ぎ、求人票の数も減っていた時期が長く続いたが、回復の兆しの見られる一年であった。実習に行けない間も施設内での訓練をしっかり行い、昨年度からの支援が実を結んだ。また、企業との関係も良好で昨年度就労された方が働かれている事業所にさらに２名の方が就労した。年度内に就労した方全員が離職することなく継続して働かれており、定着支援も順調に行うことが出来た。個々に応じた業務内容や職場環境の就労先に送り出すことが出来た。

一方で新規利用者の確保に苦慮し、新卒採用の方が１名、中途利用の方が２名と少なかった。期限満了で退所された方も２名おられたため、昨年度から一転し利用者確保が大きな課題となった。市内の就労移行支援事業所が増えてきたこともあり、利用者の獲得競争が激化している。事業所移転後の事業の在り方も含め、検討課題となりそうである。

２．年間利用状況

事業	事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日あたり	利用率	就職者数
移行	299	6	6	1,565	5.23	87.2	5

３．生産活動事業収支

令和４年度	収入	経費	工賃	収支差額
受託事業	1,800,000	535,440	1,241,237	23,335

（※B 型からの請負業務）

４．平均工賃額

総支払額	平均支給人数	平均月額
1,241,237	7	14,776

３．職種別職員数

	施設長	サービス管理責任者	就労支援員	職業指導員	生活支援員	嘱託医
常勤職員（移行）	１（兼）	１（兼）	１	１		
非常勤職員（移行）			１		１	１（兼）

４．事故・苦情

事故	車両事故：０件　　事業事故：０件
苦情	０件

５．利用者の障害支援区分

区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
６名	０名	０名	０名	０名	０名	０名

（※令和５年３月３１日現在）

令和４年度事業報告

京都いたはし学園（就労継続支援Ｂ型）

１．総括

【就労継続支援Ｂ型】

コロナ禍で販売先などが限定されていた状況が少しずつではあるが改善され、休日のイベントにもわずかながら出店できた。通常の販売先や納品先での売り上げも若干回復し、年末と年度末に賞与を支給することができた。利用者へお支払いする工賃が少し増額したことは良かった。また、清掃では年間を通しての除草作業を受託したことで、大幅に売り上げが上がった。軽作業の受託量も増え、お一人お一人が担当する仕事量も増えたが、各々がやりがいを持って取り組まれていた。除草が一年間のみの契約に終わったことは残念であった。

積年の課題であった事業所の移転について前進があり、移転する土地が決まった。移転後の店舗でイートインスペースを併設する計画であることなどを含め、検討した結果、長年親しまれてきた喫茶「こぱん」は惜しまれつつも閉店とした。

２．年間利用状況

事業	事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日あたり	利用率	就職者数
Ｂ型	301	14	23	5,127	17.03	121.7	0

３．生産活動事業収支

令和４年度	収入	経費	工賃	収支差額
パン・製菓事業	15,432,304	12,688,100	2,955,298	-211,094
喫茶事業	5,121,876	4,197,426	977,599	-53,149
受託・清掃事業	4,550,991	1,107,809	3,125,781	317,401
合計	25,105,171	17,993,335	7,058,678	53,158

４．平均工賃額

総支払額	平均支給人数	平均月額
7,058,678	23	25,574

３．職種別職員数

	施設長	サービス管理責任者	目標工賃達成指導員	職業指導員	生活支援員	嘱託医
常勤職員（Ｂ型）	１（兼）	１（兼）	１	１	１	
非常勤職員（Ｂ型）				３	２	１（兼）

４．事故・苦情

事故	車両事故：１件　　事業事故：件
苦情	５件（※主に製品に関するもの）

５．利用者の障害支援区分

区分なし	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
16名	０名	２名	４名	１名	０名	０名

（※令和５年３月31日現在）

京都市山科身体障害者福祉会館

令和４年度は前年度に続き新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けた一年となりました。会館事業の運営そのものが休止に至らなかったものの、生活介護の利用者、職員が断続的にコロナ陽性になるなど、緊張を伴う中で業務を遂行することとなりました。

「カラオケ」、「歌声」、「民謡」、「ウクレレ」など歌唱を伴う教室については、感染防止の観点から今年度も講座を休止しました。

このため、本年度に実施した講座は、文科系講座では「書道」、「水墨画」、「華道」の３講座運動系講座では「ソフトエアロ」、「太極拳」の２講座計５講座となり、パソコン講習会については、「ワード基礎」、「エクセル基礎」、「オフィス応用」の計３講座でした。

【ふれあいフェア山科での１コマ】

また、例年実施している「外出レクリエーション」、「年忘れ会」、「Xmas ジャズコンサート」などの人気行事も前年度に続いて全て中止することになりましたが、例年 11 月に実施していた「やったね！秋まつり」の代替行事として障害者週間に合わせて「ふれあいフェスタ山科　やっぱり！冬まつり」を山科合同福祉センターエリアで実施することができました。コロナ禍の状況でしたが、たくさんの来場者があり、好評を得られ、今後のイベント開催に向けての大きな経験となりました。結果的に本年度の年間利用者数は前年度比約 21％増の 25,700 人となり本年度は増加傾向にありました。

地域公益事業として地域の方を対象に行っている　「車いす貸出事業」は、前年度から少し増加し、134 件の利用でした。内訳として個人貸出数の増加から車椅子貸出事業の地域への浸透を実感する結果となりました。同じく、地域公益事業である「フリースペース」は、コロナ過の中でも地域住民、施設利用者の交流を深める場として休館日の施設を活用して頂きました。

コロナ禍において、この３年間は会館事業を縮小してきましたが、次年度は会館利用者の高齢化等の課題も踏まえながら、利用者ニーズや社会動向を把握し対応していくとともに、会館利用者にとって安心して利用できる施設経営を行っていきたいと思います。

【年間利用状況】　（人）

事業日数	実利用人数	１日当たり
308 日 (306 日)	25，700 (20,233)	83.4 (66.1)

【会館利用者数内訳】　（　）内前年度　（人）

会議室Ａ	会議室Ｂ	ボランティア室	調　理　室	食　　堂	ロビー	喫茶・図書ロビー	休養室	入浴室	合　計
3,139 (2,244)	5,094 (4,468)	0 (56)	1,096 (1,036)	6,481 (4,530)	930 (229)	4,376 (3,263)	3,390 (3,195)	1,194 (1,212)	25,700 (20,233)

【職種別職員数】

区　分	管理者	支援員	看護師	計
常勤職員	1	3		4
非常勤職員		4	1	5

【事故・苦情】

事故	物損事故：なし	人身事故：なし
苦情	なし	

令和４年度事業報告
京都市山科身体障害者福祉会館（生活介護事業）

【概　要】

日中活動では貼り絵、アイロンビーズ、ビーズアクセサリー、絵画、クロスワードパズル、切り絵などに取り組みました。創作物の一部は廊下に展示、アクセサリーなどは館内ロビーや「冬まつり」で販売し好評でした。機能訓練では利用者ニーズに沿った訓練メニューを提供しました。今年度は感染状況を踏まえながら３年ぶりに外出プログラムを実施しました。イングリッシュガーデン、嵐山方面へドライブ、イオンモール京都、ブランチ大津京、京セラ美術館に出かけ、参加者から喜んでいただけました。地域における公益的な取り組みとしては、利用者１名と共に小学校を訪問、自身の障がいについて講演したり、車椅子体験を実施しました。また、介護等体験、保育実習、社会福祉実習の受け入れを積極的に行いました。サポーターズカレッジを使用した内部研修を年間４回実施しました。職員間でディスカッションなどを行い、互いの学びを深めることができました。令和５年度も定期的に福祉事務所、支援学校、病院の地域連携室などへ営業に出向き、積極的に利用者の受け入れを実施していくとともに、利用者が安定した地域生活ができるように、施設、家庭、関係機関との情報交換のさらなる充実を図っていきます。また、利用者、職員の健康を守るため、感染予防、感染対策の徹底に努めていきます。

【クリスマス会】

【アイロンビーズ】

【年間利用状況】

事業日数	定員	在籍者数	実利用者数	１日当たり	利用率
２５７日	20 名	３４名	3,５４７名	１３.８名	６９％

【利用者の障害程度区分】

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	１名	４名	１５名	１４名	３４名

【職種別職員数】

区別	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医	計
常勤職員	１名	１名	６名			８名
非常勤職員			２名	２名	１名	５名

【事故・苦情】

車両物損事故	車両人身事故	支援中の事故	苦情
２件	０名	２件	０名

令和４年度　事業報告
京都市山科身体障害者福祉会館（指定特定相談支援事業）

●事業概要

今年度は２名の利用者が介護保険へ移行しました。１名は事前に関係事業所と連絡を取り合い、つながりのある事業所にケアマネを引き受けてもらうことが出来ました。最終的な調整に時間がかかり、ケースワーカーと相談の上、介護保険移行を１ヶ月先延ばしすることになりましたが、混乱なく移行することが出来ました。もう１名は早い段階から家族と話をすることが出来ていたので、家族が地域包括支援センターへ相談に行くなど積極的に移行に向けた準備を進めてもらうことが出来ました。支援に入っている事業所の中に介護保険への移行が出来ないところもありましたが、他事業所への引継ぎもスムーズに行えました。

次年度も介護保険優先年齢を間近に控えた利用者がいるので、移行の際には早めにケアマネジャーと連絡を取り合い、スムーズに移行できるよう対応していきたいです。

家族の高齢化と介護力の低下から、在宅の生活に困難をきたしてきているケースが複数あり、今年度１名の利用者が施設入所となりました。今後も、在宅での生活の困難さを本人及び家族にしっかりと認識してもらいながら、ヘルパーの利用やレスパイト入院・ショートステイの利用・施設入所・ひとり暮らしの検討等、次のステージへスムーズに移行出来るよう、関係事業所やケースワーカーと連携を図りながら支援していきたいと考えています。

これからも、これまでの経験や関わってきた関係機関などと協力を密にしながら相談支援のスキルアップに努め、利用者や家族からより信頼され、その力になれる計画相談を行っていきたいです。

●実施状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用支援		1			1			4	2				8
継続支援		2	3	2	1					1	1	2	12
セルフプラン													

令和４年度事業報告書
福祉有償運送　京都ラクシヨーネ／京都ラクシヨーネ伏見

【概　要】

福祉有償運送事業は法人の地域貢献事業としての位置づけで平成 27 年（2015 年）に事業を開始して満８年、移動に困難を抱える地域の人たちの足として広く認知されるようになりました。今年度も新型コロナウイルスの流行が続いたため、利用者と乗務員の安全を担保するため、車内の消毒や検温などの感染対策を行いながら運行を継続しました。１月に運転手が濃厚接触者に該当する可能性がある事案が発生したため、利用件数を減らして運行することがありました。幸い、運転手を含む全員が感染者となることなく運行を継続することができました。山科のラクシヨーネの今年度の年間運行件数は前年比０.１％減（―２３件）の 4,８７７件、運行収入も前年比０.１％減の 4,843,１２０円と少しの減少となりました。会員数については事業の認知度の高まりもあり、前年比４９名増の５４０人となりました。伏見はショートステイの利用が減少したため、年間運行件数は前年比８.7%減（―４７回）の４８９回、会員数は１名増の３６名でした。

山科の新規利用については、ケアマネジャーや訪問看護ステーションからの紹介に加え、現会員からの情報伝達により増加しています。医療的ケアの必要な重症心身障害児の利用も引き続き増えており、公共交通機関の利用が難しく、自力で通院や通園を行うことができない方の移動の足として活用が広がってきています。また、東部圏域以外の支援センターや京都市からの紹介で利用を開始する方も増え、利用される方の居住地も山科・醍醐に留まらず、市内全域に広がってきており、宇治市や大津市など隣接する自治体に居住される方からの問い合わせも入るようになっています。また、身体障害や要介護認定の方だけでなく、精神障害や知的障害があり、外出や移動に困難を抱える方の利用も着実に増えてきています。

利用目的では通院やショートステイでの利用が多く、特に通院の利用は増加しています。通院先は多岐にわたり、音羽記念病院、音羽病院、京大病院、府立医大、医療センター、第一日赤、武田総合病院や地域のクリニックなど市内の医療機関だけでなく、岡本記念病院、宇治病院、南京都病院など市外の医療機関の入退院や受診での利用も数多くありました。また、今年度も重症心身障害児の児童発達支援事業所や日帰りショートステイなど児童の療育活動に参加するための利用も増えました。

スタッフにも車両にも限りがありますが、次年度もできるだけ地域の人たちのニーズに応えられるよう、移動確保を推進し、安全運行に尽力していきたいと思います。

【令和４年度福祉有償運送運行実績概要（山科・伏見合計）】

	事務所数（ヶ所）	運転者数（人）	会員数（人）	運行件数（件）	輸送人数（人）	走行距離（ｋｍ）	運行収入（千円）
令和４年度	2	30	576	5,287	8,265	57,426	5,367
（参考）令和３年度	2	34	529	5,563	8,700	61,326	5,516

令和４年度事業報告

京都市山科障害者授産所
（生活介護事業）

◆ 事業概要

今年度は在籍者１４名でスタートした。新型コロナウイルスへの感染を恐れて通所を控えたケースや機能低下により長期入院したケース等があったが、全体的には年間を通して安定した通所率を維持することができた。

令和４年７月より日中活動時間を通常の時間帯に戻したが、今年度も引き続き新型コロナウイルスの感染防止策として一定の作業スペースを確保した。引き続き食事時間を二部制とし「手洗い」、「消毒」、「マスクの着用」を徹底した。また通所後の検温や健康観察をしっかりと行い、体調のすぐれない利用者には状況に応じて自宅での療養をお願いするなどした。

新型コロナウイルス感染予防のため令和２年度からレクリエーション行事の実施を控えていたが、今年度は祝日に実施し利用者の余暇時間の充実に努めた。

また今年度も、嘱託医の協力を得て利用者・職員へのワクチン接種（新型コロナウイルス・インフルエンザ）を勧めることができ、施設全体の感染対策に力を注いだ。

次年度も新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、利用者が安心して日中活動に取り組める環境を維持するとともに、利用者の障害特性や生活状況に合わせた個別支援に注力し、利用者が安定した地域生活を送っていけるよう支援していきたい。

◆ 事業実績

① 年間利用状況（令和３年度４月～令和４年３月）

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	１日あたり	利用率
２４３日	１０人	１４人	2,572 人	10.5 人	105.8%

② 職種別職員数

所長(兼)	サービス管理責任者(兼)	生活支援員（常勤）	生活支援員(非常勤)	看護師	嘱託医	計
1	1	1	4	1	1	9

③ 利用者障害区分

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
―	―	1人	8人	5人	1人	15人

④ 授産事業の収支

事業内訳	収入	支出		収支差額
		工賃	経費	収支
印刷事業	1,776,819	1,265,800	0	511,019
受託事業	393,099	279,600	0	113,499
自主製品事業	586,545	417,500	0	169,045
利息/積立	１０７	0	0	107
合計	2,756,570	1,962,900	0	793,670
平均工賃	12,268			

⑤ 事故・苦情　１件

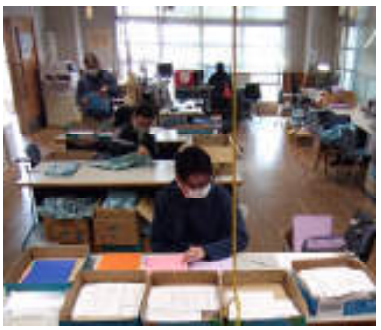
令和４年度事業報告

京都市山科障害者授産所

（就労継続支援Ｂ型事業）

◆事業概要

今年度もコロナウイルスの影響を受けた一年であった。令和２年４月より所内での密を回避し感染を防ぐために活動時間の短縮を行っていたが、感染状況が落ち着いた令和４年７月から通常時間に戻し活動を行った。それに伴い全利用者に送迎サービスを実施していたが、自主通所の方は公共交通機関を利用した通所に戻した。



今年度の在籍者は１４名であった。新規利用者を確保するために福祉事務所・生活支援センター・支援学校・病院内にある地域連携室などに営業に出向いた。その結果新規利用者２名を確保することが出来た。しかし今年度も新型コロナウイルスによる通所控えや持病の悪化により亡くなられたケース、ケガで長期入院するケースなどがあり、今年度も通所率は思うように伸びなかった。

授産業務においては、新型コロナウイルスの影響を受けとことで、授産業務全般の受注数が減少していたが、今年度は少しずつではあるが受注量を回復することができた。

次年度も新型コロナウイルスに注意を払いながら、就労事業の収益向上と作業内容の拡充に努めたい。

◆事業実績

①　年間利用状況（令和４年度４月～令和５年３月）

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	１日あたり	利用率
２４２日	１０名	１４人	2,064 人	8.4 人	84.9%

②　職種別職員数

所長(兼)	サービス管理責任者(兼)	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	嘱託医	計
1	1	1	1	1	1	6

③　授産事業収支

事業内訳	収入	支　出			収支差額
		工賃	生活介護へ外注費	その他の経費	収支
印刷事業	5,296,040	1,014,100	1,776,819	3,938,142	▲1,433,021
受託事業	1,500,907	223,900	393,099	175,584	708,324
自主製品事業	4,276,254	334,200	586,545	2,117,889	1,237,620
補助金	52,714	0	0	0	52,714
利息等	70,057	0	0	0	70,057
合計	11,195,972	1,572,200	2,756,463	6,231,615	635,694
平均工賃額	10,623				

④　事故・苦情　　なし

令和４年度　事業報告書

京都市山科障害者デイサービスセンター　(生活介護事業)

◇概要

今年度も新型コロナウィルス感染症オミクロン株の感染力が強く、陽性者・濃厚接触者が幾度も発生し、通所自粛依頼をせざる得ない日が続いた。その為、通所率も大幅に減少し、介護給付費等の収入も激減した。また家庭内感染で濃厚接触者や陽性者となり、職員体制がとれず、ご家庭に通所自粛依頼をお願いする日もあった。マスクの着用が難しい利用者が大半を占めていることもあり、事業所内で陽性者が発生した際は、ご家庭の協力を仰ぎながら、対象の方に対し、抗原検査やPCR検査をその都度実施した。

行事や活動プログラム内容については、昨年と同様に感染予防に努めながら、室内での活動が中心となった。そのような中、今年度は法人内の山科エリア共同で地域住民に向けて、冬まつりを実施した。当事業所では、クリスマスツリーを作るワークショップや手作りの紙芝居の読み聞かせを行い、多くの参加者から好評を得ることができた。今後、新型コロナウィルス感染症が５類に分類されることに伴い、感染予防に努めながら、流行以前の活動内容に近づけていきたい。

昨年同様に養護者であるご家族の高齢化に伴い、利用者が退所されるケースが続き、年々、開所当初より当事業所を週５日間利用されている方も減ってきている。経営面で厳しい状況であり、今後積極的に新しい利用者の受け入れを行う。

◇主なプログラム

運動、リラックス、ワーク、園芸、音楽、創作、室内レクリエーション、茶話会等

◇あんずルーム

令和３年10月からコロナウイルスの影響で利用を止めていたが、令和５年３月から利用再開とした。少人数でゆったりとした環境の中、個々の利用者に合わせ、スヌーズレン室の利用や近隣散歩、ＤＶＤ鑑賞を行った。今年度は午後のみの利用になっている。コロナウイルスの感染の法的位置づけが５類になった後、１日の利用を開始する予定である。

◇主な行事

〇コロナウイルス感染症流行の為、中止となった行事：秋まつり・秋の一日外出・冬のお茶会月間

＊室内プログラムとしてお茶会に変更したり、創作活動を行ったりした。

〇実施した行事：花見・クリスマス月間・冬まつり・初詣・避難訓練

◇ボランティア　年間延べ人数：　２７名：コロナウィルス感染症流行期間は来所を控えていただいた。

◇事故・苦情　利用者の係わる事故　０件　運転事故３件　苦情０件

①年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用者数	一日あたり	利用率	備考
２９３日	２０名	２７名	3,９８２名	１３．６名	６７．９％	

②利用者の障害支援区分（令和５年３月現在）

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	０名	３名	８名	１７名	２８名

③職種別職員数

区分	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護士	嘱託医	計
基準配置	１名	１名	１０名	１名		１３名
常勤職員		１名	８名			８名
非常勤職員	１名（兼務）		６名 （内兼務１名）	１名	１名（嘱託）	９名

令和 4 年度事業報告概要　　京都市やましな学園（生活介護事業）

今年度も、日帰りレクリエーション、余暇外出、秋祭り等のイベントは中止となったが、ボランティアや講師を招いての音楽活動、土曜日開所、朝市等は、感染対策を行う中で実施する事が出来た。中止となった日帰りレクリエーションの代わりに、ドーナツ余暇、だいご学園でのランチを楽しむ余暇プログラムを実施した。障がい者週間の 12 月には「やったね！秋まつり」の代替えとして、「やっぱり！冬まつり」を開催した。生産活動については、社会情勢の影響を受ける事も少なくなり、ご利用者のスキルアップも伴い、各下請け先からの受注も大幅に増えた。平均工賃は昨年度より 297 円増の 2,345 円を支払う事が出来た。利用者の加齢、身体機能の低下などに伴い、1 月には障害程度区分の平均が区分５を上回ることとなったため、利用者３人に対し１人の職員を配置するよう変更を行った。

① 年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	1 日当たり	利用率
251 日	35 名	40 名	7,398 名	29.5 人	84.2%

② 利用者の障害支援区分　（人）

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
0	0	1	9	24	6	40

③ 職種別職員数（令和４年４月）　（人）

区分	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医
配置人数	1	2	9	1	1
常勤換算	0.4	1.1	9.0	0.1	—

職種別職員数（令和５年２月）　（人）

区分	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医
配置人数	1	2	13	1	1
常勤換算	0.4	1.1	10.4	0.1	—

毘沙門堂除草

ギフトバッグ作業

姉小路絵画展

④ 生産活動事業収支　（円）

令和４年度	収入	必要経費	工賃	収支差額
受託事業	1,240,245	20,472	973,299	1,219,773
清掃事業	79,557	2,110		77,447
自主製品	28,130	4,272		23,858
その他（販売他）	32,276		39,861	▲7,585
その他預金利息	26			26
合　　計	1,380,234	26,854	1,013,160	340,220

工賃支払状況（円）	令和３年度	令和４年度	前年度比
総支給額	907,080	1,013,160	111,7%
工賃支払対象者延べ人数	443	432	97.5%
1 人当たりの　　支給月額	2,048	2,345	114.5%

⑤ 事故・苦情

利用者にかかる事故	感染症　０件	
運転事故	物損事故　４件	人身事故　０件
苦情	０件	

令和４年度事業報告概要　　京都市やましな学園（就労継続 B 型事業）

令和４年度は、日々変化する新型コロナウイルス感染症の情報について正確に把握しながら、作業や余暇などにおいて活気ある職場を目指し取り組んだ。定期開催している利用者作業会議（厨房・清掃・下請け）では、司会や書記などの役割も利用者が担い、活発な意見交換が行われた。自分たちで課題を見つめ改善策を考えることでより精度の高い作業とモチベーションアップにつながった。

事業収入の面においては、新規希望者１名が７月から利用開始となり利用定着に結び着いた。今年度の出席率も非常に高く、『B 型向上委員会』のメンバーを中心とした感染対策も定着し、日々の活動に息苦しさを感じることなく、皆が前向きな気持ちを保ちながら過ごすことができた。

① 年間利用状況

事業日数	定　員	在籍人数	実利用人数	１日当たり	利用率
252 日	20 人	24 人	5,227 人	20.7 人	103.7%

利用者の障害支援区分　（人）

未判定	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
7	0	0	6	6	5	0

② 職種別職員数　（人）

区分	管理者	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	職業支援員	生活支援員	目標工賃達成指導員	嘱託医
配置人数	1	2	6	1	1	1
常勤換算	0.2	1.1	3.4	1	1	―

③ 生産活動事業収支　（円）

令和４年度	収入	必要経費	工賃	収支差額
受託事業（預金利息含む）	1,926,975	175,141	3,601,736	▲1,849,902
清掃事業	3,834,715	1,149,634		2,685,081
その他	2,176,700	1,789,838	769,499	▲382,637
就労継続支援 生産活動支援補助金	21,205			21,205
合計	7,959,595	3,114,613	4,371,235	473,747

④ 工賃支払状況　（円）

工賃支払状況	令和３年度	令和４年度	前年度比
総支給額	4,287,220	4,371,235	102.0%
工賃支払対象者延べ人数	277	282	101.8%
１人当たりの　支給月額	15,477	15,501	100.2%

土曜開所（マジックショー）

⑤ 事故・苦情

利用者に係る事故	0件	
車両事故	物損事故０件	人身事故０件
苦　　情	0件	

秋まつり司会進行係

チャリティー朝市

令和４年度事業報告　京都市だいご学園

（多機能型 就労移行支援事業・就労継続支援Ｂ型事業）

◆事業概要

今年度は移行、Ｂ型共に新卒者を１名ずつ迎え入れ、合計在籍者数４６名でスタートした。１１月には学園内での新型コロナのクラスター発生に伴い２日間営業自粛を行ったり、施設外就労先でも多数の陽性者が出るなど引き続きコロナ禍の影響を大きく受けた１年であったが、移行においては利用者のニーズに柔軟に対応しながら４名の就職者を輩出することが出来た。

少しずつ社会経済活動も活発化する中で、製菓・製パン事業の主要取引先である大学へ通学する学生も増えてきたことや３年ぶりの企業販売の再開、新規販売会の開拓、法人内外での注文販売を継続して頂けたことなどを背景に、前年度を大きく上回る売上を達成することが出来た。

喫茶事業（ふらっと）においては感染対策をしっかりと講じながら、日替わりイベントを開始したり、いきセンとの共同企画月「ふらっと相談Cafｅ」や「だいご健康体操」を実施し、ふらっとを通じてより一層地域の方との交流を深めることが出来た。

受託事業においてもコロナ禍に伴い、浮き沈みの時期も有ったが、2月からは受注量が大幅に増加した。またコロナ禍においても感染リスクを気にすることなく作業が出来る高台寺清掃や公園清掃の業務を継続的に行うことが出来た意義も大きい。

◆事業実績

①年間利用状況

（就労移行支援事業）

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日あたり	利用率
249 日	６名	９人	1,221 人	4.9 人	81.7%

（就労継続支援Ｂ型事業）

事業日数	定員	在籍人数	実利用人数	１日あたり	利用率
263 日	34 名	38 人	8,289 人	31.5 人	92.7%

②職種別職員数

（就労移行支援事業）

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	職業指導員	就労支援員	嘱託医	計
常勤職員		1	1	1	1		4
非常勤職員	1		3	1		1	6

（就労継続支援Ｂ型事業）

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員	嘱託医	計
常勤職員		1	1	3	1		6
非常勤職員	1		3	1		1	6

③就労事業収支

令和３年度	収入	必要経費	工賃	収支差額
製菓・製パン事業 (喫茶・売店含む)	20,837,824 (5,198,653)	15,491,236	5,521,758	▲175,170
受託事業 (下請・施設外就労含む)	4,845,295	2,427,962	2,416,270	1,063
継続支援事業補助金	187,095			187,095
合計	25,870,214	17,919,198	7,938,028	12,988

④工賃支払状況　※京都府提出_工賃実績計算シートより算出

	就労移行支援事業	就労継続支援Ｂ型事業
総支給額	625,816	6,779,074
総支給人数	49	424
１カ月平均支給額	12,772	15,988

⑤就職者数

	一般企業等	就労継続支援Ａ型事業
就労移行支援事業	３名	１名
就労継続支援Ｂ型事業	０名	０名

⑥事故・苦情

事故	物損事故　３件	人身事故　０件
苦情	な　し	

令和４年度事業報告

デイスポット楽（生活介護事業）

【 概　要 】

今年度も行事については前年度と同様に１日外出や半日外出は自粛し、外出はミニドライブや近隣散歩や芸術祭を見に行った。館内行事では５月、いちごムース作り。７月、魚釣りゲーム。１０月、ハロウィン仮装写真撮影。１２月、クリスマスリース作り。２月、チョコレートムース作りなど２か月に１回、曜日を変えながら計５回の行事を行った。

＜釣りゲーム＞

＜ハンドエステ＞

＜芸術祭＞

通常の活動では、歩行や階段昇降、ストレッチやマッサージなど個別で行う機能訓練、カードゲームやボッチャ、体操プログラム、ソフトエアロなどのグループ活動や園芸、貼り絵、折り紙などの個別活動に加え、季節に合わせた壁面画作成や行事に伴う創作、映画鑑賞、ｉｐａｄ、園芸活動を行った。個々の適性に応じたプログラムの提供に努めた。また、施設内で月２回、散髪・美容カットの提供を行ったり、家庭での入浴が困難な利用者に対して、入浴の機会を提供するなど生活の質の向上に努めた。入浴回数についても職員体制を整え、見直しを行いながら、少しでも多くの利用者が入浴できるよう検討し、利用回数を増やしたり、他事業所の入浴サービスとの実施間隔の調整を行うなどサービスの向上を図った。

＜ハロウィン＞

＜園芸活動＞

＜ミニドライブ＞

多くからの学校から 10 名の実習生を受け入れ、次世代に福祉を担う職員の育成に努めた。
地域交流では陵ヶ岡児童館の児童や社交ダンスの講師、ハンドエステのエステティシャンと交流を持つことで地域との関わりを深める機会を設けることが出来た。京都市発達支援センターかがやきの研修を職員全員で受けたことにより支援の質の向上と職員のスキルアップを図る土台を設けることが出来た。

令和５年度はこれまで取り組んできた支援や活動と新たに取り組む支援や活動をより充実させ、利用者との信頼関係を深め、サービス向上の実現と、安定した運営が行えるよう努めて行っていきたい。

【年間利用状況】

事業日	定員	在籍者数	実利用者数	１日当たり	利用率
265 日	20 名	32 名	4183 名	15.8 名	79.0%

【利用者の障害支援区分】

区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
０名	０名	０名	２名	６名	24 名	32 名

【職種別職員数】

区別	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	看護師	嘱託医
常勤職員	１名	１名	６名	１名	
非常勤職員			６名	１名	１名

【事故・苦情】

利用者に関わる物　０件（事故０件、苦情０件）　　車両事故　１件　（物損１件、人身０件）

令和４年度 事業報告　生活サポートセンター『ほっと』
（居宅介護・行動援護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業）

１．事業内容

７月頃から「ほっと」関係者の間にも新型コロナウイルスの大きな流行があり、その間大幅に支援への派遣を縮小することになった。また、社会的にも大きな流行の時期だったため、「ほっと」としても大きな影響を受けることになった。

新型コロナウイルスの流行が長期化したことにより、外出の支援については、家族や利用者と相談のうえで、利用者や同行するヘルパーの感染予防も考慮して、公共交通機関の利用を最小限にする、人混みを避ける場所の提案をするなどしてきた。利用者家族からも、感染者が多い時期にあっては外出時間の短縮や、状況が落ち着くまでは外出をキャンセルしたい、との要望もあった。今後、新型コロナ感染症への対応が緩和されることにより、外出する範囲も広がり、時間数、件数も回復していくと思われる。

「ほっと」関係者内での大きな新型コロナウイルスの流行や、関わる利用者の大病が判明したりなど、支援内容についての急な変更や、大きな見直しなどがあった。それによるヘルパーへの負担増や、ヘルパー自身の生活サイクルの変化などによって、同時期に退職者が続いた。補充のための求人は行っているが、応募者がなかなかおらず、ヘルパー人員は未だに充足されていない。

併設するグループホーム利用者が令和５年度に６５歳を迎えられる。これまでもグループホーム内で居宅支援を利用してきたが、従前のままでは介護保険優先の原則により、継続して「ほっと」で支援を実施することができなくなる。また、以前にも６５歳で当事業所の支援を終了し、訪問介護を実施する他事業所へ引き継いだ利用者もいた。利用者からは当事業所での継続を望まれていたが、かなわなかった。それらのことから今回、共生型訪問介護の指定申請を行った。これにより、６５歳を超えてからも介護保険の支援として、当事業所で継続して支援を実施することができるようになる。また今後は、介護保険対象の利用者への受入れも進めていき幅広い事業を展開していきたい。

２．派遣状況

	介護給付費	地域生活支援事業	計
年間 （事業収入）	5812 件　9,653 時間 （49,569 千円）	987 件　4,689 時間 （10,458 千円）	6722 件　14,342 時間 （60,027 千円）

3．利用内訳（令和５年３月利用分・重複あり）

居宅介護		行動援護		重度訪問介護		同行援護		移動支援	
利用人数	延べ件数	利用人数	延べ件数	利用人数	延べ件数	利用人数	延べ件数	利用人数	延べ件数
16	443	11	62	1	1	0	0	26	73

4．職員体制

管理者（兼務）	サービス提供責任者	常勤ヘルパー（兼務）	事務員（兼務）	登録ヘルパー
１名	４名	１名	１名	３０名

5．事故・苦情件数

事故	ヘルパー派遣時：２件	車両：０件（物損）
苦情	０件	

令和４年度事業報告　共同ホーム　あんど
（共同生活援助（介護サービス包括型）

①　事業内容

引き続き令和４年度も、新型コロナウィルスに翻弄された１年だった。
入居者、支援者共に、積極的にワクチン接種をし、室内消毒・空気清浄と換気・パーティション設置・マスク着用・面会時間１時間以内等の感染予防対策を徹底的に行ったが、７月入居者と支援者合わせて 16 名のクラスターが発生した為、７月末まで閉所せざるを得ない状況となった。閉所期間中、京都府感染症サポートチームに来所してもらい、感染の経緯の説明とグループホームの状況を見てもらった上で、指導と助言を受けた。何よりも、目や喉などの粘膜を保護することが、コロナ感染予防の第一で、汚染された手で目を触らない。すぐに手指を消毒する。これが徹底していれば、殆ど防ぐ事が出来るとの事だった。クラスター発生時には他施設職員からの応援を得ることができ、何とか急場をしのぐことができた。

今後の課題は、感染症や災害への対応力強化を図る観点から、感染症対策や業務継続に向けた取り組み、災害に当たっての地域と連携した取り組みを強化する事が必要である。

②職員会議・研修

世話人会議２回、スタッフ会議４回
虐待防止研修…参加者９名
サービス管理責任者…参加者１名

③健康診断

利用者（通所先で実施）、職員全員に実施。

④消火・避難訓練

年２回、消防署と協力し、消火・避難訓練を実施。
※今年度は新型コロナウイルス予防の為、消防署の立ち合いなし。

⑤利用者の障害支援区分

性別	区分４	区分５	区分６
男性	１人	２人	１人
女性	２人	２人	

⑥職員体制

職　種	常勤	非常勤
管理者（兼務）	１人	
サービス管理責任者	１人	
世話人・生活支援員		１２人
夜間支援員		１２人

⑦利用状況

	開所日数	延利用者数	平均利用者数
R4.4 月～R5.3 月	365日	2,693 人	7.4 人

⑧事故、苦情

事故	０件
苦情	０件

令和４度事業報告　共同ホーム　あんど（短期入所）
（短期入所事業（空床型））

① 事業内容

令和４年度の短期入所事業（ショートステイ）は、グループホーム入居者や支援者が新型コロナ感染症に罹患したり、通所する日中施設において新型コロナ感染症陽性者や濃厚接触者が発生したため、急遽ショートステイの利用を断らざるを得ないケースやキャンセルされるケースが２８件あった。

特に令和４年７月後半に新型コロナ感染症クラスターが発生し、男性寮を閉鎖したため、利用を断らざるを得ないケースが２８件中９件あった。

今年度も主な介助者であるご家族の入院に伴う緊急ショートステイは、１件あった。当法人内で緊急ショートステイに対応できる施設は無く、当所の役割は重大ともいえる。今後も利用者の家庭内で突発的な状況により、緊急ショートステイの依頼があれば、出来る限り協力していきたいと思う。

また、生活サポートセンター『ほっと』がバックアップ施設として機能し、短期入所事業が円滑に進むよう連携を図っていきたい。さらに適切な利用者支援が出来るよう短期入所従事者の介助技術を向上させ、個々の障がい特性に合った支援が出来るよう取り組みたい。

② 年間利用状況

＜月別利用状況＞ （人）

	令和４年度		
	男性寮	女性寮	計
4月	３０	８	３８
5月	２２	８	３０
6月	２３	１３	３６
7月	８	６	１４
8月	２	３	５
9月	１９	５	２４
10月	２１	９	２４
11月	１４	７	２１
12月	１０	４	３４
1月	１８	６	２４
2月	１６	７	２３
3月	２１	８	２９
	２０４	８４	２８８

＜実利用者数＞ （人）

	令和４年度		
	男性寮	女性寮	計
4月	８	６	１４
5月	７	６	１３
6月	９	５	１４
7月	８	７	１５
8月	３	６	９
9月	６	４	１０
10月	７	５	１２
11月	６	７	１３
12月	９	５	１２
1月	５	４	９
2月	４	３	７
3月	５	３	８
	77	61	138

③ 職種別職員数

職　種	非常勤
管理者（兼務）	１人
世話人・生活支援員 夜間支援従事者（兼務）	１２人

④ 事故、苦情

事故	０件
苦情	０件

令和４年度事業報告

放課後等デイサービス　すてーじ

☆事業概要

開所して６年目の令和４年度は、前年度末に高等部卒業等で２名が退所されたが、３名の新規利用者を迎え入れ、登録者数は２９名になった。在籍利用者の利用日の追加希望にも対応し、全ての曜日で定員を越えて受け入れ、通所率確保に努めた。しかし４月、５月は、新型コロナウイルスへの罹患や感染予防のため利用控えがあり、特に重症化リスクの高い、医療的ケアを必要とされる児童の欠席が目立った。

医療的ケアが必要な児童には、医療的ケアの必要度合いによって区分１～３に分けられ、区分が高いほど報酬が高くなるが、必要な看護師の配置人数も増えていく。今後も医療的ケア児と職員、看護師の配置バランスを考えながら運営していく必要がある。

令和４年度は高等部卒業のため２名退所することが決まっているが、来年度２名の新規利用者を迎え入れる予定になっている。来年度も定員を越えて受け入れていくが、毎年卒業のため退所する利用者が出てくるため、来年度途中から翌年度を見据えた利用者の確保が必要になってくる。

☆主なプログラム

創作・室内レクリエーション・スヌーズレン・屋上遊び・クッキング・外出・フィジカルケア

＜創作＞

＜室内ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ＞

＜クッキング＞

＜屋上遊び＞

☆年間利用状況

事業日数	定員	在籍人数	利用延べ人数	平均利用者数	利用率
２９３日	１０人	２９人	２６３９人	９．０人	８９．９％

☆利用者の内訳

	小学生（低学年）	小学生（高学年）	中学生	高校生	合計
男	３人	２人	５人	６人	１６人
女	３人	７人	２人	１人	１３人
合計	６人	９人	７人	７人	２９人

☆職種別職員数

職種	管理者	児童発達支援管理責任者	児童指導員	保育士	公認心理師	看護師
常勤	１名（兼務）	１名	１名	１名	１名	１名
非常勤			３名			３名

☆事故・苦情

・利用者に関わる事故　１件

事故	物損事故　７件	人身事故　０件
苦情	なし	